

インドネシア共和国

ソロ身体障害者職業リハビリテーションセンター

実施協議調査団報告書

平成6年12月

(1994年12月)

LIBRARY



J 1143187(1)

国際協力事業団

社協一
JR
94-074

インドネシア共和国 ソロ身体障害者職業リハビリテーションセンター 実施協議調査団報告書

平成6年12月 (1994年12月)

(8)
93
7F

14



1143187 [1]

インドネシア共和国
ソロ身体障害者職業リハビリテーションセンター
実施協議調査団報告書

平成6年12月
(1994年12月)

国際協力事業団

序 文

インドネシア共和国は第6次国家開発5カ年計画（1994～1998）で経済開発とともに福祉の向上を目指し、社会省が不公平是正の観点から障害者、低所得者など、社会的弱者に対する社会サービスの拡充に取り組んでいる。このうち、身体障害者に対しては職業能力向上に重点を置き、全国にリハビリテーションセンターを設けて職業訓練を行っている。中でも、ソロ・リハビリテーションセンターは、その中核的存在で、障害者の指導と指導者の育成を行ってきたが、労働市場の求める人的資源を育てるためには指導者も不足し、施設も老朽化していた。

このためインドネシア政府は、職業リハビリテーションのための指導者養成、職業訓練コースの実施、評価技術者の養成、雇用情報の収集を目的とする技術協力を、わが国に求めてきた。

これを受けて国際協力事業団は1993年2月に基礎調査団、1994年4月には事前調査団を派遣し、さらに1994年8月には長期調査員を送ってプロジェクト方式技術協力の可能性を探った結果、職業指導・評価、縫製職業訓練、コンピュータ職業訓練の3分野で職業リハビリテーションシステムの構築に協力する方向が固まった。このため今般は1994年（平成6年）10月25日から11月5日まで、労働省大臣官房審議官 浅見 真氏を団長とする実施協議調査団を現地に派遣し、調査・協議のうえ討議議事録（Record of Discussions:R/D）と暫定実施計画（Tentative Schedule of Implementation:TSI）の署名を取り交わして、同年12月20日から3年間にわたる技術協力を開始する運びとなった。

この間にインドネシア政府は、新しくチビノンに「国立障害者職業訓練センター」（NVTC）を設立し、この新施設を国の障害者職業訓練分野の中核にしたいとの構想を固めて、わが国に無償資金及び技術協力を要請してきたので、先行する「ソロ・リハビリテーションセンター」への協力は、そのパイロットプロジェクトと位置づけられることになった。

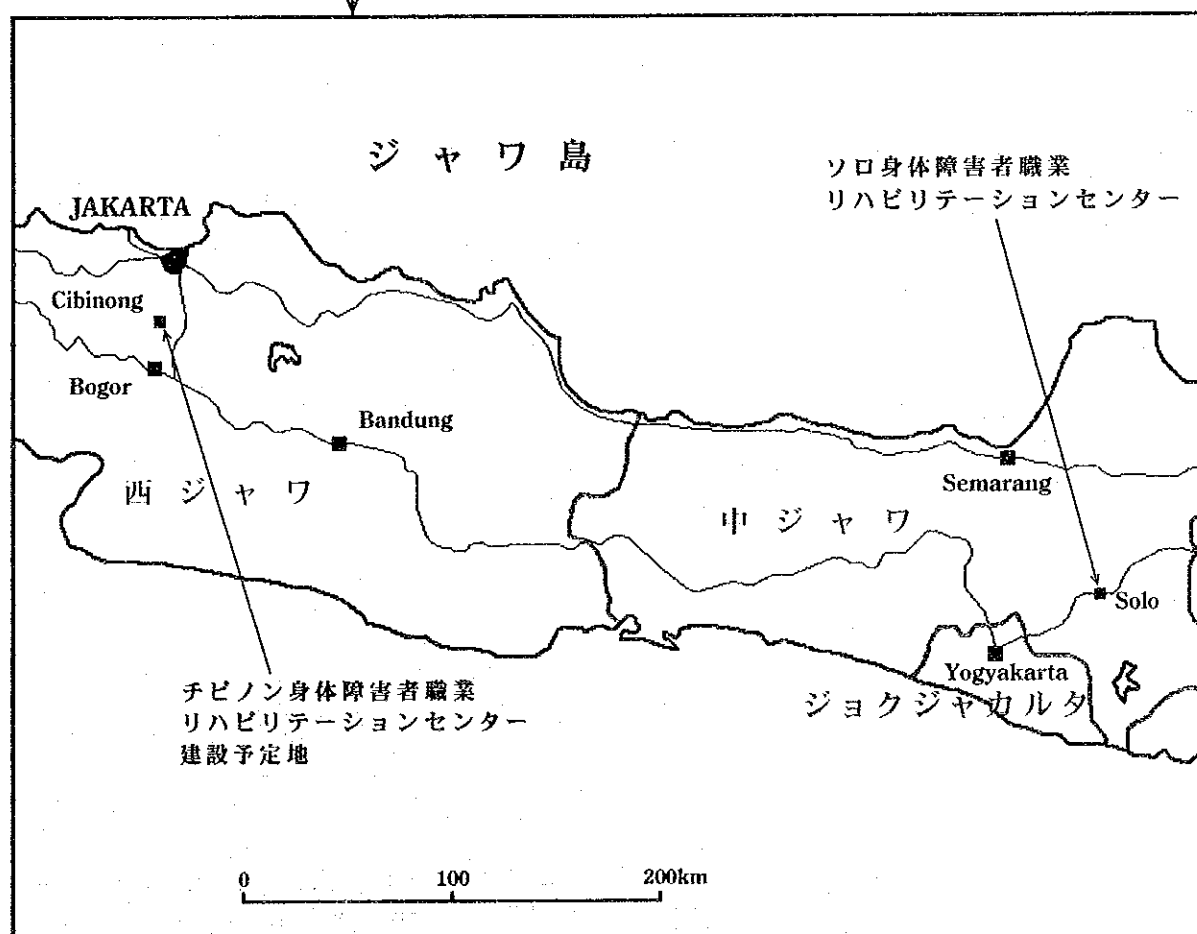
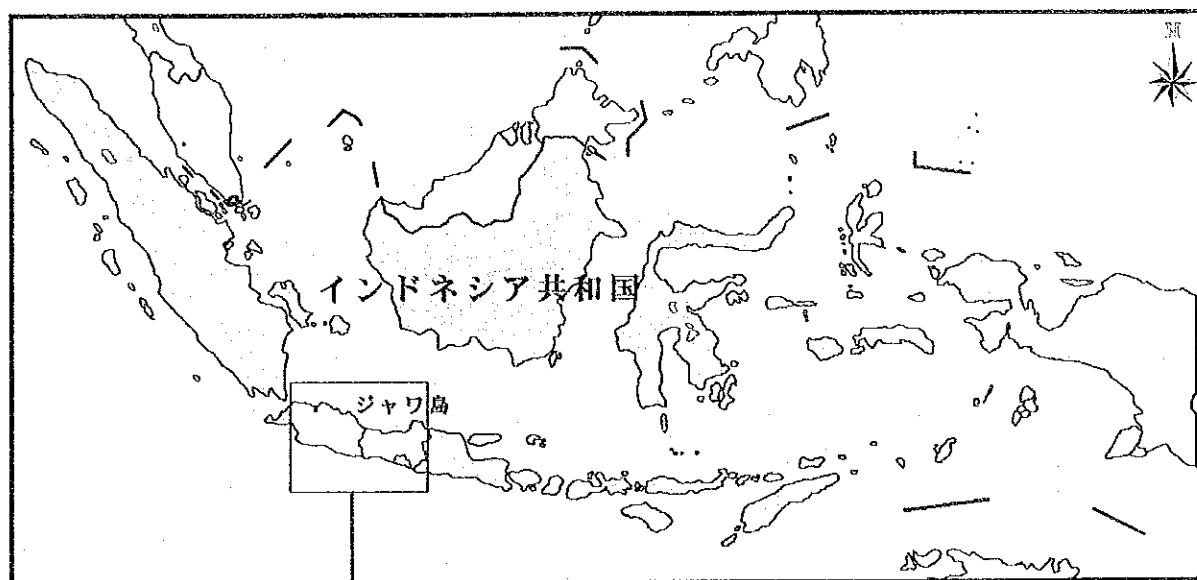
本報告書は「ソロ身体障害者職業リハビリテーションセンタープロジェクト」実施協議調査団の調査・協議結果を取りまとめたものである。ここに調査団の各位をはじめ、ご協力いただいた労働省、外務省、在インドネシア日本大使館など、関係各機関の方々に深く感謝するとともに、今後のさらなるご支援をお願いする次第である。

平成6年12月

国際協力事業団

理事 佐藤 清

プロジェクトサイト位置図



目 次

序文

地図

目次

1. 実施協議調査団の派遣	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 調査団の構成	2
1-3 調査日程表	2
1-4 主要面談者	3
2. 要約	5
3. 討議議事録の交渉経緯	7
4. プロジェクト実施上の留意点	13
4-1 カウンターパート	13
4-2 技術移転に必要な機材等	14
4-3 施設の改修等	15
4-4 業務計画	16
4-5 運営委員会（ステアリングコミッティ）	18
4-6 留意事項	18
5. 今後の課題	23
6. 討議議事録等	27
6-1 討議議事録	29
6-2 暫定実施計画	44
6-3 協議ミニッツ	46
付属資料	
長期調査員報告書	53

1. 実施協議調査団の派遣

1-1 調査団派遣の経緯と目的

近年インドネシア国の経済は急速に成長しており、過去20年間の経済成長率は平均6.8%であった。その一方で、社会福祉・保健医療等の社会インフラ整備は立ち遅れが目立ち、全人口の3.1%（約560万人）が障害者であるにもかかわらず、リハビリテーション体制等が未整備のため、障害者の社会的地位は低いままである。

現在のところ、インドネシア全国には37カ所の各種公立リハビリテーションセンターがある。このうち肢体不自由者に対する唯一の国立のセンターであるソロ・リハビリテーションセンターは1946年の設立以来、同国のリハビリテーション活動の中心的・指導的役割を担ってきた。しかし、スタッフの不足、施設・機材の老朽化等により訓練体制は十分といえず、訓練レベルも低く、労働市場の需要に合わないため就職率も20%程度にとどまっている。

このような状況を背景にして、インドネシア国政府は障害者に対する職業訓練の強化が必要であると考え、新たなリハビリテーションシステムの構築を目指し、ソロ・リハビリテーションセンターの機能強化を目指す本プロジェクトの協力を要請してきた。

これを受けて、国際協力事業団は1993年（平成5年）2月に基礎調査団を派遣し、本要請に対して、その背景・内容、インドネシア国側の実施体制等を調査した。その結果、医療リハビリテーションを切り離した協力が可能であり、職業指導・評価分野におけるインドネシアのシステムの改善、一般雇用を前提とする職業訓練分野のリハビリテーションシステムの構築等が必要であることが明らかになった。1994年（平成6年）4月には事前調査団を派遣し、プロジェクト名を「国立ソロ身体障害者リハビリテーションセンターにおける職業リハビリテーションシステム開発プロジェクト」とすることで協力目的を明確にし、協力内容を縫製、コンピュータの職業リハビリテーションシステム開発とすることとした。加えて、1994年（平成6年）8月には、長期調査員を派遣して、協力内容の策定を行った。

この間にインドネシア政府は、新しくチビノンに「国立障害者職業訓練センター」(NVTC)を設立し、この新施設を国の障害者職業訓練分野の中核にしたいとの構想を固めて、わが国に無償資金及び技術協力を要請してきたので、先行する「ソロ・リハビリテーションセンター」への協力は、そのパイロットプロジェクトと位置づけられることになった。

今般、これら一連の調査結果に基づいて、技術協力実施に必要な諸事項（専門家派遣、研修員受入れ、機材供与、インドネシア国側人員配置、施設の整備）の詳細をインドネシア国側と協議し、合意に達すれば討議議事録(R/D)に署名するとともに、協力計画の合意内容を暫定実施計画(TSI)として取りまとめ、署名することを目的に、本実施協議調査団が派遣された。

1-2 調査団の構成

団長・総括	浅見 真	労働省大臣官房審議官
職業訓練計画	三輪 宗文	労働省雇用安定局障害者雇用対策課
職業指導・評価	山田 文典	日本障害者雇用促進協会 総務部国際協力課調査役付
職業訓練 (コンピュータ)	平川 和男	飯塚職業能力開発促進センター訓練課講師
協力企画	原 智佐	国際協力事業団社会開発協力部 社会開発協力第一課職員

1-3 調査日程表

日順	月日	曜日	移動及び業務
1	10/25	火	東京→ジャカルタ
2	10/26	水	JICA事務所、在インドネシア日本大使館 BAPPENAS プロジェクトの位置づけ、開発予算支出について
3	10/27	木	社会省社会リハビリテーション開発総局 協力方針説明、協議
4	10/28	金	ジャカルタ→ソロ ソロ・リハビリテーションセンター 協力方針説明、協議
5	10/29	土	同上 協力方針協議、各分野協力計画協議
6	10/30	日	
7	10/31	月	同上 各分野協力計画協議
8	11/01	火	同上 R/D、TSI、ミニッツ内容協議 ソロ→ジャカルタ
9	11/02	水	社会省社会リハビリテーション開発総局 同上内容協議
10	11/03	木	同上 R/D、TSI、ミニッツ署名 JICA事務所
11	11/04	金	BAPPENAS 開発予算支出内容確認 ジャカルタ→
12	11/05	土	→東京

1-4 主要面談者

<BAPPENAS>

Dr. Fasli Djala	Head, Bureau for Sosial Welfare, Health and Nutrition
Ms. Dra Nina Sordjunani	Head of Social Welfare Division.

<社会省社会リハビリテーション開発総局>

Directorate General for the Development of Social Rehabilitation,
Ministry of Social Affairs

Dr. Susilo Supeno	Director General
Mukson	Secretary to Directorate General.
Drs. Soemardjo	Director, Directorate of Rehabilitation for the Disabled People.
Abdul Rifai Mas	Administration Division.
Walyo	Head, Sub-Directorate of Development for the Physically Disabled Rehabilitation.
Sri Kastilah	Head, Sub-Directorate of Development for the Deaf and Mute Rehabilitation.
S. P. Simorangkir	Head, Sub-Directorate of Development for Ex-Chronical Disease Rehabilitation.
N. M. Dasie Nywati	Head, Sub-Directorate of Development for the Mentally Disabled Rehabilitation.
Sambas J. Suprijam Eddy Sa	Planning Division.

<ソロ身体障害者リハビリテーションセンター>

Drs. Warsito PH	Chief of Placement and Protection
Drs, Edy Triyanto	Chief of Sub-Division, Planning and Programming
Drs. Radix Sukamto	Chief of General Division
Drs. R. M. Istichfar	Chief of Rehabilitation Services Division
Drs. Usman Suryanto	Chief of Division, for Preparation for Rehabilitation
Drs. Soemarsono	Chief of Instructors
Mr. Murhardjani	Staff of Sub-Division, Planning and Programming
Drs. Tutik Nurning Dk	-Ditto-
Mr. Bambang Tri Sugiyanto	-Ditto-
Drs. Budi Hartono	Staff for Registration, Observation and Identification Section
Mr. Budihartono	-Ditto-
Drs. Mardiyato	Staff of Increasing knowledge
Mr. Sugiati	Counterpart
Mr. Suqialim	Instructor (Dress Making)
Mr. Ratna	Chief of Vocational Section
Drs. Supardi	Administration Section

Zulaikhan
Ratina
Jularhhah

Chief of Vocational Selection Section
Spiritual and Physical Guidance Section

<Sebelas Maret University>

A. Salim Ch
Munzayanah

<日本大使館>

樋口 清高

一等書記官

<JICA専門家>

成岡 衛

社会省

<JICA事務所>

岡崎剛一郎

所長

斉藤 直樹

次長

蔵方 宏

所員

Shanti

Assistant

2. 要約

本実施協議調査団は、調査日程表に掲げたスケジュールに従ってインドネシア政府関係機関との協議及び調査を重ねた結果、ソロ身体障害者職業リハビリテーションセンタープロジェクトの実施について合意に達した。その結果を取りまとめて11月3日、討議議事録(R/D)及び暫定実施計画(TSI)の署名を取り交わし、プロジェクト方式技術協力は1994年12月20日から3年間にわたって実施される運びとなった。

合意によれば、プロジェクトはインドネシア社会省社会リハビリテーション開発総局長を総括責任者、ソロ身体障害者リハビリテーションセンター所長を実施責任者として、職業指導・評価、縫製職業訓練、コンピューター職業訓練の3分野にわたって行われる。わが国はチーフアドバイザー、業務調整員をはじめ長期・短期専門家をそれぞれの分野に派遣し、必要な資機材を供与して、障害者の職業訓練とそのリハビリテーションシステムの構築に協力する。インドネシア側は各分野に3名以上のカウンターパートを配置するとともに、施設・備品など、プロジェクト活動に必要な環境を整えることになっており、いずれもすでに実施に向けて動き始めている。

今後の展開に当たっては、本プロジェクトと並行してわが国に無償資金協力及びプロジェクト方式技術協力を要請している同国チビノン国立職業訓練センター(NVTC)計画との調整が重要である。本プロジェクトはNVTC計画に先行するパイロットプロジェクトと位置づけられており、インドネシアにおける身体障害者職業リハビリテーションシステム構築に関する協力の第1フェーズとなるわけだが、将来にわたって技術協力できる範囲をあらかじめ念頭に置き、チビノンにおける協力を視野に入れつつ本プロジェクトを実施していく必要がある。これは職業訓練科目の絞り込み、調査・研究(R&D)、スタッフトレーニング、対象とする障害の種類など、いずれの点においても重要であり、本技術協力を通じてインドネシア側の構想をよく把握し、協議をすることが必要であると考えられる。

3. 討議議事録の交渉経緯

本実施協議は先行の事前調査、長期調査員両報告書をベースにインドネシア側と協議を重ね、その結果合意を得た点を討議議事録(R/D)及び暫定実施計画(TSI)に取りまとめた。討議経過については、表-1を参照。

(1) 協力開始時期

インドネシア側は1995年1月1日を要望していたが、この場合プロジェクト終了が1997年12月31日の年末となるため、専門家の帰国時期にも配慮して1994年12月20日開始を要望し、合意を得た。

(2) R&D、スタッフトレーニング

インドネシア側はソロ・リハビリテーションセンターで、独自にこの分野の業務を始めたい意向であるが、この分野は今後チビノン国立職業訓練センター(NVTC)で本格化すべき活動であると思われるため、本プロジェクトでは主業務とせず、R/Dの活動分野にも含めなかった。本プロジェクトはそのための準備期間と位置づけ、現状把握、情報収集、日本の現状紹介、アドバイス等を可能な範囲で行うにとどめたい。

(3) 専門家派遣

チーフアドバイザー、業務調整員をはじめとする職業指導・評価、縫製職業訓練、コンピュータ職業訓練3分野の長期専門家5名と必要に応じて短期専門家を派遣する。このため、業務調整員を年内に派遣して、その受入れ準備を整える。

(4) カウンターパートの日本研修

1994年度3名、1995年度3名、1996年度3名、1997年度3名の受入れを検討する。なお、1996年度及び1997年度については、R&D・スタッフトレーニング分野でさらに1～2名の受入れもありうることをとする。

(5) マスタープラン

1) 上位目標は「インドネシアにおける身体障害者の職業リハビリテーションシステムが構築される」であり、プロジェクト目的は「ソロ・リハビリテーションセンターにおける職業リハビリテーションシステムの開発」である。

2) プロジェクトのアウトプットは ①ソロ・リハビリテーションセンターのスタッフ

の職業指導・評価能力を開発する ②同センターのスタッフに対して縫製及びコンピュータ職業訓練のトレーニングを行う——である。

3) プロジェクト活動は以下のとおり。

- a) ① 現行の社会リハビリテーションシステムの現状把握、分析
- ② 新しい職業リハビリテーションシステムの開発・試行
- ③ 新しい職業リハビリテーションシステムの評価、改善
- ④ 上記全活動の評価

- b) ① 職業訓練計画の作成
- ② カリキュラムの作成、改良
- ③ 訓練教材の作成
- ④ 指導技法、専門技術の移転
- ⑤ 職業訓練の実施
- ⑥ 訓練用機器の操作、管理方法の移転
- ⑦ 訓練評価法の開発

表-1 協議内容とその結果

94.11.14

項目	経緯	対処方針	インドネシア側考え方・方針	協議結果
<p>プロジェクト名 英文は the Project for Development of Vocational Rehabilitation System in the National Rehabilitation Centre for Physically Disabled People. Prof. Dr. Soeharso, Surakarta</p>	<p>和文は ソロ身体障害者職業リハビリテーションセンタープロジェクト - 英文省略名称の確認 -</p>	<p>インドネシア側考え方・方針</p>	<p>協議結果</p>	
<p>協力開始時期 94年12月1日から95年1月1日に 変更要望</p>	<p>・94年12月20日からとする。 - 調整員を年内派遣し専門家受入れ準備を整える。 - 95.1.1開始とした場合、プロジェクト終了が97.12.31となり、 専門家任期もこれにあわせることになるが、年末に重なり不都合。 12.19帰国とするため、12.20開始とする。</p>	<p>・94年12月20日からとする。 - 調整員を年内派遣し専門家受入れ準備を整える。 - 95.1.1開始とした場合、プロジェクト終了が97.12.31となり、 専門家任期もこれにあわせることになるが、年末に重なり不都合。 12.19帰国とするため、12.20開始とする。</p>	<p>調整員の早期派遣のため、94年12月20日とすることにて合意。</p>	
<p>スタッフトレネニング及び調査・研究(R&D)を活動分野に入れることについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短期専門家での対応可能性示唆(事前調査ミニニッツ) ・活動分野にスタッフトレネニング及び調査・研究(R&D)を入れること、短期専門家によるシステム開発等を要望 	<p>・スタッフトレネニング及び調査・研究(R&D)は、プロジェクトの主要務とはしないので、R/D上の活動分野とはしない。 ・ソロでの協力期間はスタッフトレネニング調査・研究(R&D)の準備期間と位置づけ、現状把握、情報収集、日本の現状紹介、アドバイスしてもらいたい。プロジェクトの活動内容に含めないことに同意する。 ・現在、スタッフトレネニング、調査・研究(R&D)ともに一定の計画に基づいて行われているものではない。(スタッフトレネニングは、1~2カ月、20~30人程度のコースを年3~4回実施している。調査・研究(R&D)については、データ収集等を行っている。) チビノンでは、カリキュラム、方法論等を整備し、体系化していきたい。 Sebelas Maret University(3月11日大学)でのR&D CBRに関するR&D(地域に根ざしたものであり、地域社会の経済的負担も検討する。) 医学、社会科学、教育、心理学からなる学際的研究内容 青少年の教育(フォォーマル及びインフォォーマル) 成人障害者の就業についての研究 障害者の就業について 障害者雇用政策の把握 調査対象例:工場(繊維、陶器、漢方薬等)、事務職、販売(スーパーバーマケット)</p> <p>(詳細別紙)</p> <p>調査団説明 チビノンセンターでの業務開始に向けてスタッフトレネニング及び調査・研究(R&D)に早期に着手したいというインドネシア側の意向は理解するが、本プロジェクトは職業リハビリテーションシステムを新たに開発するものであり、職業指導・評価、職業訓練という分野に焦点を当てざるべきである旨説明した。ただし、先方要請もあるところ、長期専門家(R/D)に記載の5名の範囲内)が月に1回程度、日本の経験、事例紹介のいは、先方と意見交換を行うことは可能である旨説明した。また、スタッフトレネニング及び調査・研究(R&D)に關し、インドネシア側がこれまで実施してきたこと、今後の計画の具体的な内容を確認したい旨申し入られた。</p>	<p>必要なのは職業訓練の検討</p>	<p>日本側案にて合意。</p>	

項目	経緯	対処方針	インドネシア側考え方・方針	協議結果
<p>チビノン協力 無償資金協力は、6年度B/D(または、事前調査)7年度E/N、8年度未完工</p> <p>プロ技協はフェーズ分けにより実施する (6月29日各省会議)</p>	<p>インドネシア側要望のあるスタックアップトレートニング及び調査・研究(R&D)は、基本的にはチビノン協力で対応されるものであり、スタックアップトレートニング及び調査・研究(R&D)について協議する際には、チビノン協力についての共通の認識を待っていることが必要。</p> <p>・チビノンでの協力は了解事項</p> <p>・調査団対応はチビノン協力を根拠で行う。</p> <p>・スタックアップトレートニング、調査・研究(R&D)の位置づけ等につきインドネシア側案を聴取する。</p> <p><調査団説明> チビノン協力についてコミットすることはこの調査団の任務ではないが、日本側関係機関は前向きに検討している旨、伝えた。</p>	<p>・インドネシア側で、無償資金協力要請内容、チビノンの協力を内容について調整する。</p>	<p>ソロセンターは、チビノンセンターとの関係において、準備段階、パイロットプロジェクトと位置づけられる旨説明があった。</p>	<p>協議結果</p>
<p>無償資金協力による建物、機材とチビノン協力内容の整合性について</p>	<p>・機材の使用目的(TCDC研修用機材)については、インドネシア側にJTICA事務所を通じ確認する。</p> <p>・プロジェクト必要機材については、TCDC機材のうち、プロジェクトで使用できることが明白なもの以外は、プロ技協スキームで対応する。</p>	<p>・現行スケジュールの中で、無償資金協力要請内容、チビノン協</p>	<p>ソロセンターでは、TCDC機材を本プロジェクトとは別に独自に使用しようとする意向があるが、同機材はプロジェクト側で徹底するものである。</p>	<p>(今後、無償資金協力によるチビノンセンター建設とその後のプロ技との調整が必要な事項)</p> <p>チビノンセンター建設の無償資金協力は、94年度内工事、95年度6～7月B/D、12月E/N、96年度5月工事、工期約1年の予定、無償資金協力の要請は、対象とする障害者の範囲を、業務の現職覚醒者、知的障害者としており、業務の範囲を、職業リハビリテーションA：縫製、コンピュータ、事務、セクショナルB：金属加工、木工、印刷、自動車整備)、セクショナルC：電気・電子、自動車整備)、スタックアップトレートニング、調査・研究(R&D)としている。</p> <p>ソロ協力に含まれない、想像覚醒者、知的障害及び電気電子等の職業訓練については、無償で機材が入った場合に、プロ技の対象とするのか、方針を検討しておく必要がある。特に想像覚醒者については、ソロプロジェクト事前調査段階で、対応困難を理由に、協力対象からは除外している経緯もあり、無償で機材が入って、十分活用されない場合、技協での対応の必要が出てくるものと考えられる。</p>
<p>TCDC機材について</p>	<p>1) TCDC機材はプロ技で使用する。2) 専門家はプロ技の業務にこれを使用し、TCDCの業務は行わない。(TCDCのコース参加者の見守り支援する程度のことには協力する) という2つのスタンスに両局長に確認し、同総局長より、ソロセンター側に確認した。</p> <p>ただし、今後日本側として、TCDC機材が本来目的に使われていないことについて、無償資金協力も含めて、対応を検討しておく必要があるものと考えられる。</p>	<p>ソロセンターでは、TCDC機材を本プロジェクトとは別に独自に使用しようとする意向があるが、同機材はプロジェクト側で徹底するものである。</p>	<p>1) TCDC機材はプロ技で使用する。2) 専門家はプロ技の業務にこれを使用し、TCDCの業務は行わない。(TCDCのコース参加者の見守り支援する程度のことには協力する) という2つのスタンスに両局長に確認し、同総局長より、ソロセンター側に確認した。</p> <p>ただし、今後日本側として、TCDC機材が本来目的に使われていないことについて、無償資金協力も含めて、対応を検討しておく必要があるものと考えられる。</p>	<p>協議結果</p>

項目 経緯	対処方針	インドネシア側考え方・方針	協議結果
暫定実施計画等について			・ミニッツに記載のとおり、協議、合意した。
要請書提出について 専門家 研修員	<ul style="list-style-type: none"> ・年内提出スケジュールを社会省、SECABにて確認。 H.6 3名(受入れ可能性を検討の上、必要な手続きを確認する。) H.7 3名 H.8 3名(スタッフトレーニング及び調査・研究(R&D)分野での1~2名の受入れを検討) H.9 3名(同上) ・6年度は視察型の研修が適当 ・A4フォーム提出スケジュール確認 ・年度内購入分については、現地調達スケジュールを確認 		<p>12月1日JICA事務所提出</p> <p>専門家赴任後研修適任者を決定し手続きを行う。</p>
機材			<p>12月1日JICA事務所提出</p> <p>現地調達手続きについては、JICA事務所機材購入担当者とのスケジュールの打合せを行い、見積書取付等を依頼した。</p>
インドネシア側負担について	<ul style="list-style-type: none"> ・先方より要望があれば、住居の提供の項は削除可他のプロジェクトでは、出張旅費、住居の提供の提供はないとしている。 ・出張旅費提供の項は維持する。 	(BAPPENAS及び社会省) 専門家住居については、インドネシア側は、実質的に負担し得ず、R/Dから削除してはいい。	R/Dからの削除に合意
車輦、オフィス用備品について	<ul style="list-style-type: none"> ・先方提供につき再度申し入れエアコン、車輦、事務機器等については、インドネシア側で負担するよう申し入れた。(対BAPPENAS、社会省) 	今年度、及び来年度の予算で努力する。(BAPPENAS、社会省)	<p>専門家出張旅費については、ジャカルタ・ソロワ往復航空費(2人/月)をインドネシア側で負担する旨確認した。</p> <p>一部、確保が困難なものである模様であり、その場合、日本側での対応が必要になってくるものと考えられる。</p>
PDMについて プロジェクト目標、成果、活動については事前調査ミニッツで合意	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニッツ別添 ・プロジェクト活動内容におけるPDMの位置づけについて協議する。 		<p>事前調査時に引き続き、説明を行った。</p> <p>インドネシア側はPDM手法を取り入れることとを評価し、若干の議論も行ったが、インドネシア側で検討したいとのことであり、署名文書に合意するには至らなかった。(日本側作成PDM案については、別紙参照)</p>

インドネシアソロ身障者リハビリセンタープロジェクトデザインマニュアル(PDM)

(事前調査後改訂版) 1994. 6. 1 国際協力事業団社会開発協力1課

プロジェクトの要約(Narrative Summary)	指標(Indicator)	指標入手手段(Means of Verification)	外部条件(Assumption)
<p>上位目標(Overall Goal)</p> <p>インドネシアにおける身体障者職業リハビリテーションシステムが構築される</p>	<p>障害者の企業、自営等での就業がはかれる状態になっている</p> <p>就業した訓練生の所得が向上する</p> <p>社会省、労働省の関係機関、企業組織、地域組織等のネットワークが機能している</p> <p>企業、自営等で就業する訓練生が増える</p>	<p>企業雇用調査データ</p> <p>訓練生追跡調査データ</p>	<p>障害者の就業、社会参加に対する事業主の理解</p> <p>障害者の就業、社会参加に対する社会的理解</p> <p>障害者の就業促進のための制度・基金の整備(関係法令の整備、就業支援のネットワーク、資金の提供、交通アクセスの改善等)</p>
<p>プロジェクト目標(Project Purpose)</p> <p>ソロ・リハビリテーションセンターにおける身体障者職業リハビリテーションシステムが開発される</p>	<p>職業リハビリテーションサービスが効果的、効果的に行われるようになる</p> <p>縫製及びコンピュータ科職業訓練コースが開設されインドネシア制訓練指導員によって運営される</p>	<p>定期報告書</p> <p>調査団報告書</p> <p>訓練生アンケート調査</p> <p>C/P配置状況表(分野別人数)</p> <p>訓練実施状況表</p> <p>機材維持管理状況表</p> <p>教材作成状況表</p>	<p>職業訓練指導員(C/P)の確保</p> <p>施設運営予算の確保</p> <p>入所生の確保及び職業訓練終了後の就職の確保</p>
<p>成果(Outputs)</p> <p>1. ソロ・リハビリテーションセンター職員職業指導、職業評価に関する技術移転が完了する</p> <p>2. ソロ・リハビリテーションセンター職業訓練コース職員(指導員)の密接の向上が図られ、一般市場に適用する知識・技能を指導できるようになる</p>	<p>職業評価、職業指導に関する技術移転が完了する</p> <p>縫製及びコンピュータ科の職業訓練に関する技術移転が完了する</p>	<p>ソロ・リハビリテーションセンター業務記録(技術移転進捗状況:年度別、人数、進捗度)</p> <p>C/P技術移転チェックリスト(以下の項目によるチェック)</p> <p>(1) 職業評価・職業指導 [2 職業訓練]</p> <p>現状分析の実施</p> <p>新職リハシステム作成、試行</p> <p>新職リハシステム評価・改定</p> <p>指導技法・専門技術の移転</p> <p>訓練用機器操作・管理方法の移転</p> <p>訓練評価法の移転</p>	<p>職業紹介に関する労働省の協力</p> <p>職業訓練に関する労働省の協力</p> <p>C/Pの離職防止</p>
<p>活動(Activities)</p> <p>1 職業指導・職業評価に係る技術移転</p> <p>1-1 現行の社会リハビリテーションシステムの調査・分析の実施</p> <p>1-2 新しい職業リハビリテーションシステムの作成と試行</p> <p>1-3 新しい職業リハビリテーションシステムの評価と改定</p> <p>1-4 上記全活動の評価</p> <p>2 職業訓練に係る技術移転</p> <p>2-1 職業訓練計画作成</p> <p>2-2 カリキュラムの作成と改善</p> <p>2-3 訓練教材の作成</p> <p>2-4 指導技法・専門技術の移転</p> <p>2-5 職業訓練の機材・管理方法の移転</p> <p>2-6 職業訓練の機材・管理方法の移転</p> <p>2-7 訓練評価法の移転</p>	<p>インドネシア側</p> <p>1. プロジェクト用運物・荷品</p> <p>2. カウンタースタッフ</p> <p>3. 運営予算</p>	<p>日本側: 協力期間 3年</p> <p>1. 長期専門家 5人</p> <p>2. 短期専門家 3人/年</p> <p>3. 研修員受け入れ</p> <p>4. 機材供与</p> <p>5. ローカルコスト負担</p>	<p>職業訓練に関する労働省の協力</p> <p>C/Pの離職防止</p>
<p>前提条件(Pre-Condition)</p> <p>職業紹介に関する労働省の協力</p> <p>職業訓練に関する労働省の協力</p>			<p>職業訓練に関する労働省の協力</p> <p>C/Pの離職防止</p>

4. プロジェクト実施上の留意点

プロジェクトの実施計画については、事前調査及び長期調査の結果を踏まえて今回討議したことをミニッツとして取りまとめた。また、ミニッツ外のこととして、雇用予約の可能性、広報活動、事務の流れ等について討議を行った。

4-1 カウンターパート

(1) 人数

カウンターパート(C/P)の人数は、フルタイムで各分野2人以上としたうえ、パートタイムで各担当部門の部長を加えることとし、3人以上とした。

(2) 条件

C/Pの選定条件は、次のとおりとする。

1) 職業指導・評価

職業指導・評価分野の経験者

2) 縫製

縫製分野の経験者

3) コンピュータ

コンピュータの経験者または電子、電気、機械分野のいずれかの知識を有する者

(3) 配置時期

配置時期は、1995年1月中旬とする。

(4) 1994年度のC/Pの日本研修

1994年度のC/P研修の人数は、3名とする。人選については、1月に日本側専門家と協議のうえ決定するものとする。

(5) 職業指導・評価のC/Pの変更

職業指導・評価のC/Pについては、長期調査の結果、本報告書の90ページ及び91ページのとおり候補者がリストアップされたところであるが、訓練生の受入れ等、入口部門を担当する準備部(DIVISION FOR PREPARATION)及び就職活動等出口部門を担当する援護部(DIVISION FOR PLACEMENT AND PROTECTION)については、担当部長が兼務で入っているものの実務者がリストアップされていなかった。一方、評

備課(SECTION FOR SELECTION)については4名入っており、評価部門に重点を置いたリストになっていた。就職率20%という現状を改善するためには、入口と出口を担当する指導部門を強化する必要があると考えられる。

このため、指導部門から実務者を追加できないかと申し入れたところ、新人のMrs. Dyah Ikaに代えて、援護部門からMr. Mochorjiを入れてもらうことができた。

4-2 技術移転に必要な機材等

(1) 主要機材

1) 職業指導・評価

AV機器、職業適性検査器、身体測定機器

2) 縫製

1ニードルロックミシン、ボタンホールミシン、裁断機、小型ボイラー

3) コンピュータ

コンピュータ、プリンタ、アプリケーションソフト

(2) 職業指導・評価分野の機器等

職業指導・評価分野の機器等については、長期調査の際に日本側が用意したリストに加えてインドネシア側から各種検査機器の要請が出ていた。このため、①頻繁に使用される可能性の高いもの ②基礎的なもの ③職業との関係が強いと考えられるもの、を目安として必要最小限の機器等に絞ることとし、ソロ・リハビリテーションセンターのスタッフと検討を行った。この結果、表-2のリスト(p.20)で合意を得た。ただし、棒押し盤、紐掛け検査器等については、次回機器を検討する際には再検討したい旨要望があった。また、WAIS知能検査については、インドネシアで標準化されたものが良いとの判断から、インドネシア版を使用することとなった。インドネシア版は、専門分野を学んだ者でないと購入できないとのことで、社会省で価格、仕様等を調査してもらうこととした。

現地においてJICA調達担当者と調達スケジュールについて協議したが、きわめて厳しい状況なので、帰国後最優先で作業を行うこととした。業務スケジュールもタイトなので、機器の納品が後れた場合は業務スケジュールの変更が必要になると考えられる。調達方法については、現地担当者と相談した結果、現地調達のメリットがあると考えられる別紙リストの職業指導関係1~9とWAISの知能検査を現地調達、その他を日本で調達する方向とした。

(3) 設備・備品

インドネシア側で用意すべきコンピュータ室の空調装置、プロジェクト専用車、コピー機等について、必ず確保するよう社会省及びBAPPENASに対して表-3 (p.21)により念押しを行った。

4-3 施設の改修等

(1) 職業指導・改修等

長期調査の結果、職業指導・評価室については、現在評価課で使用している部屋を主として使用することとなったが、現状のままでは専門家とC/Pが入るスペース、ミーティングを行う場所等がないので、今回はこれらについて意見交換を行った。

まず、受付等の入口業務と評価業務は、現在評価課で使用している部屋を使用することとし、評価課長の部屋に専門家とC/Pが入る。各小部屋が狭いために人が入りきらない、物が入らない、ちょっとしたミーティングができない等が予想されるので図-1のとおり間仕切りをしてスペースを確保することとした。施設改善については、経費節約のため大きな工事は行わず、電気容量を増やす、コンセントを増設する、照明の改善等、必要最小限にとどめた。

次に、ケース会議を行ったり、職業指導でビデオやOHPを使う等のスペースであるが、これは南南協力(TCDC)で使用している部屋が空いているときは使用可能とのことなので、少し離れていて不便ではあるが、とりあえずそこを使用することとなった。

また、就職活動等を行う出口業務については、現在業務を行っている部屋が兼用できるので、これを使用することとした。

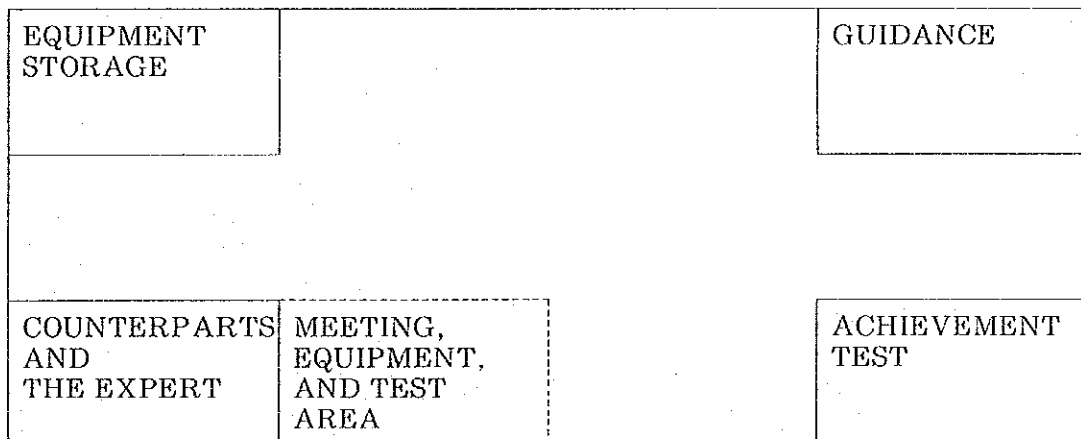


図-1 LAYOUT OF GUIDANCE/ASSESSMENT ROOM FOR THE PROJECT

(2) 縫製

縫製室については、電気容量を40KW以上とすること、プロジェクト開始までにコンセントを増設すること、照明は現状より明るくすることとした。

(3) コンピュータ

コンピュータ室の改修については、1994年12月末までに完了することとし、電気容量は20KW以上とした。また、電気配線工事については、1995年1月にコンピュータの専門家が立ち会うこととした。

なお、改修担当のスタッフ及び業者と直接話をする事ができたので、現場でこちらの要望を伝えた。この話し合いの中で、電気配線も含めて工事完了予定が1995年1月末、今年度の電気容量14KW、次年度20KWとの回答を得た。

コンピュータ	300W×30=9000W	} 13KW……13KW×1.5=19.5KW (1.5倍の安全率を見込んでいる)
レーザープリンタ	1000W×2=2000W	
ドットプリンタ	200W×10=2000W	

4-4 業務計画

(1) 暫定業務スケジュール

業務スケジュールについては、長期調査の際に検討されている (p.63) のでこれを基礎として検討を行い、次のとおりおおむね合意が得られた。

ただし ①2月のラマダン (断食)、3月上旬のルバラン (断食明け祝祭日) 等により機器の納品が遅れる可能性があること ②準備期間が短いため、C/Pの知識・技術の向上を行うための時間が十分取れない可能性があること ③職業訓練の時期と評価や就職活動を行う時期が重複していること ④1期と2期の間検討期間がないこと ⑤縫製の専門家の着任が遅れて全員揃うのが4月になったこと、などの理由から修正意見もあった。一応の合意は得られたものの、全体にタイトスケジュールとなっている。

95/1	96/1	97/1	97/12
1995年		1996年	
準備 (6M)		準備 (6M)	
…選考 (1M)		…評価・改善 (5M)	
…評価 (1M)			
……………職業訓練・職業指導 (10M)			
……………就職活動 (1M)			
[1期生]	[2期生]		

図-2 暫定業務スケジュール

(2) 訓練目標

1) 縫製

縫製工の養成（紳士・婦人既製服のパターン、裁断及び縫製に必要な基本的知識と技能を修得する）。

2) コンピュータ

アプリケーションソフトのオペレーターを養成する。

(3) 訓練対象障害者数

各コースの訓練対象障害者数は、それぞれ初年度10名、次年度20名とした。

(4) 入所基準

入所基準については、縫製が中学卒業または同等の学力を有する身体障害者、コンピュータは高等学校卒業または同等の学力を有する身体障害者としたうえ、ソロ・リハビリテーションセンターの従来業務の入所基準も併せて用いることとした。

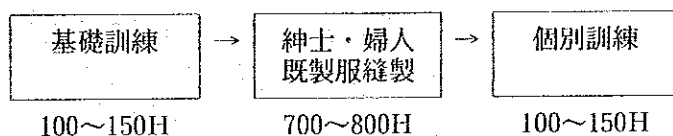
また、主たる対象者は、当初ソロ市周辺を考えていたが ①ソロ市は人口60万人の小さな町であること ②コンピュータの訓練を受ける高等学校卒業レベル以上の対象者をどれだけ集められるか懸念されること ③企業が少ないので就職先の確保の面で不安があること等から範囲を広げ、原則として中部ジャワまたはその周辺地域居住者とした。

なお、通所困難な対象者が多いと予想されることから、1期生20名、2期生40名分の寮の確保を要請し、現地側の了解を得た。

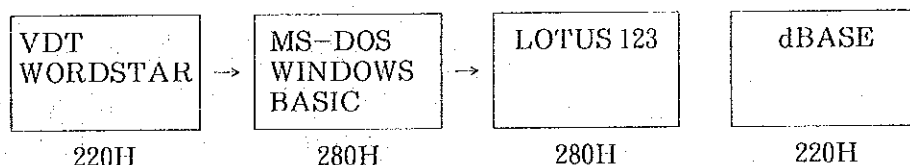
(5) 訓練時間

訓練時間は、約1,000時間とする（この場合、45分を1時間とする）。

1) 縫製



2) コンピュータ



4-5 運営委員会（ステアリングコミッティ）

運営委員会については、事前調査の際にその目的、メンバー等について検討を行うとともに、長期調査の際には、これを四半期ごとに開催するものとして合意を得ていたため、今回はこれらの確認を行った。

なお、同委員会の庶務が未定であったため検討した結果、ソロ・リハビリテーションセンターの総務部長（HEAD, GENERAL DIVISION）が担当することとなった。

4-6 留意事項

(1) 従来業務の現状と問題点の把握

プロジェクトの業務を開始するに当たってまず必要なことは、従来業務の現状把握であろう。基礎調査においてサービスの流れが把握され、事前調査により各課レベルまでのおおまかな業務内容は把握されたため、これを実際の業務と比較しながら実態がどうなっているのか、できれば実際の事例を追いながら確認することが望ましい。

(2) 雇用予約

障害者が職業訓練に入る前に事業主から求人や雇用予約を取りつけることができれば、事業主のニーズに応じた職業指導・訓練を行えるとともに、就職活動をより効果的に進めることができる。ソロ・リハビリテーションセンターの職員に対して雇用予約のような事例があるかと尋ねたところ、いまのところないとのことであったが、雇用予約の考え方についてある程度の理解を得ることができたため、プロジェクトで検討してみる価値はある。対象者の募集活動を行いながら並行して就職活動を行うことができれば効率的と考えられる。

なお、この場合 ①ソロ・リハビリテーションセンターの従来業務では入口部門を担当する職員と出口部門を担当する職員がたくさんいて、細かく分かれているため、まず内部の職員の理解を求めると②このような考えを事前に求人の受付や職業紹介を担当している労働省の地方事務所やアピンド（事業主団体）に対して、ステアリングコミッティで十分に説明し理解を得ること等が必要であろう。

(3) ソロ・リハビリテーションセンターにおける職員研修及び調査研究

ソロ・リハビリテーションセンターにおける職員研修及び調査研究については、インドネシア側からいろいろと要請はあったが、本格的協力は第2フェーズで検討することとして理解を得た。

なお、チビノンセンターに向けて準備をしたいとするインドネシア側の考えも理解で

きるので、協力を求められた場合は、業務に支障のない範囲で、日本の現状を紹介する、アドバイスを行う等については、協力することが必要であろう。(ソロ・リハビリテーションセンターの会議には、スプラス・マル大学の職員2名が出席した。ソロ・リハビリテーションセンターと共同で障害者雇用に関する事業所調査を計画しているという)

(4) 業務の流れ

討議議事録(R/D)の組織図によると、提案事項はソロ・リハビリテーションセンターの所長から直接社会省の総局長に出せることになっている。従って、今回検討した機材に関するA4フォームについてもソロ・リハビリテーションセンターで作成したものが、総局長、大臣、SEKABを経てJICAに届くことになる。ところが、成岡専門家の助言によると、総局長に直接届かない場合には、社会省内で文書が止まったり、内容が変更される可能性があるとされる。

このため、今回のA1フォーム及びA4フォームについては、ソロ・リハビリテーションセンターで作成の上、社会省で変更しないように確認を行った。プロジェクト開始後もこの流れを変更しないように留意することが、業務の円滑な運営に必要と思われる。

(5) 広報活動

前途有望な対象者を集めてこれを優良企業に就職させるためには、ソロ・リハビリテーションセンターの努力だけでは限界がある。例えば、オープニングセレモニーを新聞に載せてもらう、パンフレットやポスターを持って事業主や関係機関を回る等の広報活動を継続的に行うことにより、関係機関の理解と協力を得ることが必要と考えられる。

表-2 VOCATIONAL GUIDANCE /ASSESSMENT EQUIPMENTS PTC. FOR SOLO PROJECT
 ソロ・リハビリテーションセンタープロジェクト必要機材等対処方針(職業指導・評価)

(Japanese Side)

NOVEMBER, 1, 1994

No	ITEM 品名	Q.	PROPOSAL 調整事項	RESULT 結果
<u>(PHYSICAL ASPECT 身体的側面の評価)</u>				
1	Height Meter 身長計	2		
2	Weight Meter 体重計	2		
3	Grip Dynamometer 握力計	2		
4	Back & Leg Muscle Dynamometer 背筋力計	2		
5	Spirometer 肺活量計	2		
6	Eyesight Illumination Chart 視力表	1		
7	Color Blindness Test 石原総合色盲検査表	3		
8	Audio Meter 聴力検査器	1		
<u>(MENTAL ASPECT 精神的側面の評価)</u>				
1	Stop watch ストップウォッチ付き腕時計	5		
2	Calculator 電卓	5		
3	WAIS-R Intelligence Test 知能検査	5	Made in RI better. How much?	RI is better
4	Kohs Cube Design Test コース立法体組合テスト	5		
<u>(VOCATIONAL ASPECT 作業的側面の評価)</u>				
1	General Aptitude Test Battery 労働省編職業適性検査(事業所用)	5		
2	Personal Computer 評価用パソコン1式	2		
3	Personal Computer 採用用パソコン1式	6		
4	Software	1		
5	Sewing Machine 評価用ミシン1式	2	useful or useless?	we need it
5	Tapping Tester タッピング	2		
<u>(VOCATIONAL GUIDANCE 職業指導)</u>				
1	Overhead Projector オーバーヘッドプロジェクタ	1		
2	Slide Projector スライド映写機	1		
3	Screen スクリーン	1		
4	Camera カメラ	1		
5	Cassette Recorder カセットテープレコーダ	1		
6	Mini-Bus for Trainee ミニバス(訓練生用)	1		
7	Video Camera ビデオカメラ	1		
8	Liquid Crystal Vision 液晶ビジョン	1	portable	
9	Video Printer ビデオプリンタ	1		
<u>(AUDIO-VISUAL MATERIALS 視聴覚教材)</u>				
1	Vocational Rehabilitation in Japan (History)日本の障害者雇用(英語版VTR)	2	How about?	useful
2	Vocational Rehabilitation in Japan (System)日本の障害者雇用制度	2		
3	National Vocational Rehabilitation Center for the Disabled 障害者の未来を招く(英語版VTR)	2		
4	National Institute of Vocational Rehabilitation 職業リハビリテーションの新たな前進(英語版VTR)	2		
<u>(BOOKS/JOURNALS 図書・雑誌)</u>				
1	The Encyclopedia Americana	1		
2	インドネシア語辞典(イ日)	2		
3	現代日本語インドネシア語辞典(日イ)	2		
4	Oxford Advanced Learner's Dictionary	1		
5	ランダムハウス英和大辞典	1		
6	プログレッシブ和英中辞典	1		
7	南山堂医学大事典	1		
8	ハンディキャップ教育・福祉事典	1		
9	Journal of Rehabilitation(Q)	1		
10	Journal Vocational Rehabilitation(Q)	1		
11	広辞苑	1		
12	社会福祉英和・和英用語辞典	1		
13	ジーニアス英和辞典	1		

表-3 インドネシア側の用意する設備・備品
EQUIPMENT FOR SOLO BY INDONESIAN. SIDE

OCT. 29, 1994

(NOTE) UNDER-LINED EQUIPMENTS HAVE HIGH PRIORITY.

1 COMPUTER ROOM

(ITEM)	(TYPE)	(MAKER)	(QUANTITY)	(NOTE)
AIR CONDITIONER	SV140DB	DAIKIN	3	MAX 14000KCAL/H
AIR CONDITIONER	SVS50DBT	DAIKIN	1	MAX 5000KCAL/H
VACUUM CLEANER			1	
WHITE BOARD			2	
CABINET LOKER			1	
OA MANUSCRIPT STAND			25	
LECTURE DESK			20	
LECTURE CHAIR			20	
LECTURER DESK			1	
THERMOMETER			3	

2 ROOMS FOR LEADER AND EXPERTS

OFFICE CAR			1	
PHOTO COPY			1	
FACSIMILE			1	
TELEPHONE			1	
TELEPHONE(EXTENSION)			5	
AIR CONDITIONER			2	
SAFE			1	
KITCHEN			1	
DESK			6	
CHAIR			6	
BOOK SHELF			3	
FILING CABINET			2	
SCHEDULE BOARD			2	
WHITE BOARD			2	
WALL CLOCK			1	
MEETING TABLE			1	
MEETING CHAIR			12	
LEADER'S DESK			1	
LEADER'S CHAIR			1	
SOFA SET			1	
CARPET			1	
CABINET			1	

3 SEWING ROOM

WHITE BOARD (BIG1, SMALL 1)			2	
TRAINEES TABLE CHAIR			12	
INSTRUCTION TABLE CHAIR			6	
LOCKER			5	

4 GUIDANCE/ASSESSMENT ROOM

AV UNIT TABLE			1	
DESK			5	
CHAIR			5	
BOOKSHELF			5	
FILING CABINET			5	
MEETING TABLE			1	
SCHEDULE TABLE			2	
WHITE BOARD			2	

(C. C. BAPPENAS)

5. 今後の課題

ソロ身体障害者職業リハビリテーションセンタープロジェクトは、チビノンにおける第2フェーズの協力を前提とした準備段階と位置づけられている。このため、ソロ・リハビリテーションセンターにおける協力も、チビノンにおける協力を視野に入れて実施していくことが必要である。

現在、インドネシア国政府からは、チビノンにおける国立職業訓練センター(NVTC)の建設について、無償資金援助の協力が要請されている。その概要は表-4 (p.25)、表-5 (p.26) のとおりである。

無償資金協力の内容、技術協力の内容については、現在関係機関において検討しているところであるが、今後第2フェーズにおける協力の内容を検討するに当たっては、次の点に留意する必要がある。

(1) 無償資金協力と技術協力の調整について

無償資金協力の要請はインドネシア政府からなされているが、チビノンにおける技術協力の要請は正式にはかなり先になるものと思われる。しかし、無償資金協力の内容を検討するに当たっては、その後の技術協力で協力可能な範囲をあらかじめ想定し、これを踏まえて検討することが必要である。無償資金協力により建設された建物はすべて技術協力の対象としなくてはならないというものではないが、建物を作っただけで活用されないということになりかねないからである。

このため、今年度中に派遣が予定されている無償資金協力に係る事前調査においては、建物、機材に関する調査のみならず、事前に第2フェーズにおける技術協力が可能な範囲について日本側において検討したうえで、技術協力に係るインドネシア側の意向等についても十分な調査を実施する必要がある。この際の留意点としては、次のようなものが考えられる。

- 1) 無償資金協力要請書に挙げられているNVTCの活動のうち、インドネシア政府単独で運営できるもの、日本の技術協力が必要なものについて、インドネシア側の意向を十分聴取し、日本側の考える協力可能範囲を踏まえて協議を行うこと。
- 2) 中でも、職業訓練科目はかなり多くのものが挙げられているが、日本側として、これにすべて長期専門家を派遣して対応することは不可能であるため、インドネシア側のニーズや、わが国として協力可能な分野などの状況を踏まえ、訓練科目の絞り込みを行う必要があること。
- 3) 第2フェーズにおける訓練科目については、今回の調査においてBAPPENASの

担当者(Dr. Fasli Djala)から、電気製品修理のマーケットは大きく、有望な分野であるので、訓練科目に含めてほしい旨のコメントがあったこと。

(2) 調査・研究(R&D)、スタッフトレーニングについて

調査・研究(R&D)、スタッフトレーニングについては、本格的な協力は第2フェーズで検討することとし、ソロのプロジェクトでは、現行の協力体制の中で協力可能な範囲で協力することとしている。チビノンにおいては、これらの準備段階を踏まえ、本格的な協力を行うことが求められている。しかしながら、インドネシア側の構想は抽象的、概念的なものにとどまっており、インドネシア側ができる限り具体的な構想を提起できるよう、第1フェーズにおいて情報の提供等を行うとともに、第2フェーズにおける協力の対象として、日本側がどのような協力ができるのか、あらかじめ検討し、無償資金協力に係る事前調査に臨むことが必要である。

(3) チビノンにおいて対象とする障害の種類について

インドネシア側としては、NVTCを肢体不自由者のみならず視聴覚障害者をも対象に含む「統合されたセンター・オブ・センター」として構想している。これについて、日本側では1994年4月のソロ身体障害者職業リハビリテーションセンタープロジェクト事前調査の際に、この調査団は第2フェーズの内容を協議するものではないことを前提に、視聴覚障害者に対する職業リハビリ訓練への協力は困難であると述べている。

しかしながら、インドネシア側としては、NVTCを現在のソロ・リハビリテーションセンターよりも進んだセンター・オブ・センターとして差別化を図るため、視聴覚障害者も対象に含めたものとしたという要望を強く持っている模様(成岡専門家より)である。また、視聴覚障害について技術協力の対象外とした場合、無償資金協力の対象に視聴覚障害用の機器・設備を含めるかどうかとも関連する問題となる。なお、成岡専門家によれば、必ずしも視聴覚障害者対象の特別の訓練コースを設置する必要はないとのことである。

これらについて、無償資金協力に係る事前調査の際に、インドネシア側の構想について把握し、協議を進めることが必要であると考えられる。

表-4 NVTCの主な機能（無償資金協力要請書より）

- ① 雇用を目指した職業リハビリテーションの実施
選考、オリエンテーション → 職業訓練の実施 → 就業の促進とフォローアップ
 - ・ セクションA 縫製、コンピューター、事務等
 - ・ セクションB 金属加工、木工、籐細工等
 - ・ セクションC 電気・電子、印刷、自動車整備等
- ② スタッフトレーニング
全国のリハビリテーションセンターのリハビリテーション指導員、職業訓練指導員の養成
 - リハビリテーション行政スタッフの養成
 - 職業評価等技術スタッフの養成
- ③ 調査・研究(R&D)
 - リハビリテーションに関するモニタリング・評価
 - 情報収集
 - リハビリテーション指導員の必要数、必要分野の調査
 - リハビリテーション施設、機材の研究
 - リハビリテーションシステムの研究（訓練内容、障害者に対する労働需要、雇用者側の障害者受入れ体制整備）

表-5 NVTTCにおける職業訓練科目(無償資金協力要請書より)

GROUP	VOCATIONAL	CAPACITY (PERSON)	INSTRUCTOR (PERSON)	REMARKS
I.	MACHINERY WORK			
	a. Machinery	10	2	
	b. Welding	15	3	
	c. Small engine	10	2	
II.	METAL WORK			
	a. Metal carving	10	2	
	b. Tracing	5	1	
	c. Prosthetic & Orthetic	10	2	
III.	WOOD WORK			
	a. Painting	10	2	
	b. Wood carving	5	1	
	c. Wood working/ furniture	10	2	
IV.	ELECTRONICS			
	a. Electronics	10	2	
	b. Home electronics & appliance repair	10	2	
V.	CLERICAL WORK			
	a. Computer	10	2	
	b. Clerical work/ administration/typing	5	1	
	c. Printing	10	2	
	d. Telephone operating	5	1	WP= 8/40/
VI.	TEXTILE WORK			
	a. Machinery sewing	10	2	
	b. Dress making	10	3	VT= 8/160/32
	c. Tailoring	5	1	
		160	32	

6. 討議議事録等

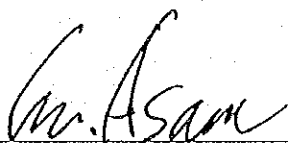
THE RECORD OF DISCUSSIONS BETWEEN THE JAPANESE
IMPLEMENTATION SURVEY TEAM AND THE
AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF
THE REPUBLIC OF INDONESIA
ON THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR THE PROJECT FOR DEVELOPMENT OF VOCATIONAL REHABILITATION SYSTEM
IN THE NATIONAL REHABILITATION CENTRE FOR THE PHYSICALLY DISABLED PEOPLE,
PROF.DR.SOEHARSO, SURAKARTA

The Japanese Implementation Survey Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Mr. Makoto Asami, visited the Republic of Indonesia for the purpose of working out the details of the technical cooperation program concerning the Project for Development of Vocational Rehabilitation System in the National Rehabilitation Centre for the Physically Disabled People, Prof.Dr.Soeharso, Surakarta in the Republic of Indonesia.

During its stay in the Republic of Indonesia, the Team exchanged views and had a series of discussions with the Indonesian authorities concerned in respect of the desirable measures to be taken by both Governments for the successful implementation of the above-mentioned Project.

As a result of the discussions, the Team and the Indonesian authorities concerned agreed to recommend to their respective Governments the matters referred to in the document attached hereto.

Jakarta, 3rd November, 1994



Mr. Makoto Asami
Leader,
Implementation Survey Team,
Japan International Cooperation
Agency,
Japan



Dr. H. Susilo Supeno
Director General
for the Development of Social
Rehabilitation, Ministry of
Social Affairs,
The Republic of Indonesia

THE ATTACHED DOCUMENT

I. COOPERATION BETWEEN BOTH GOVERNMENTS

1. The Government of the Republic of Indonesia will implement the Project for Development of a Vocational Rehabilitation System in the National Rehabilitation Centre for Physically Disabled People, Prof.Dr.Soeharso, Surakarta (hereinafter referred to as "the Project") in cooperation with the Government of Japan.

2. The Project will be implemented in accordance with the Master Plan which is given in Annex I.

II. MEASURES TO BE TAKEN BY THE GOVERNMENT OF JAPAN

In accordance with the laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take, at its own expense, the following measures through JICA according to the normal procedures under the Colombo Plan Technical Cooperation Scheme.

1. DISPATCH OF JAPANESE EXPERTS

The Government of Japan will provide the services of the Japanese experts as listed in Annex II.

2. PROVISION OF MACHINERY AND EQUIPMENT

The Government of Japan will provide such machinery, equipment and other materials (hereinafter referred to as "the Equipment") necessary for the implementation of the Project as listed in Annex III. The Equipment will become the property of the Government of the Republic of Indonesia upon being delivered C.I.F. to the Indonesian authorities concerned at the port and/or airport of disembarkation.

3. TRAINING OF INDONESIAN PERSONNEL IN JAPAN

The Government of Japan will receive the Indonesian personnel connected with the Project for technical training in Japan.

3/11/84

III. MEASURES TO BE TAKEN BY THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF INDONESIA

1. The Government of the Republic of Indonesia will take necessary measures to ensure that the self-reliant operation of the Project will be sustained during and after the period of Japanese technical cooperation, through the full and active involvement in the Project by all related authorities, beneficiary groups and institutions.
2. The Government of the Republic of Indonesia will ensure that the technologies and knowledge acquired by the Indonesian nationals as a result of the Japanese technical cooperation will contribute to the economic and social development of the Republic of Indonesia.
3. The Government of the Republic of Indonesia will grant in the Republic of Indonesia privileges, exemptions and benefits to the Japanese experts referred to in II-1 above and their families no less favorable than those accorded to experts of third countries working in the Republic of Indonesia under the Colombo Plan Technical Cooperation Scheme.
4. The Government of the Republic of Indonesia will ensure that the Equipment referred to in II-2 above will be utilized effectively for the implementation of the Project in consultation with the Japanese experts referred to in Annex II.
5. The Government of the Republic of Indonesia will take necessary measures to ensure that the knowledge and experience acquired by the Indonesian personnel from technical training in Japan will be utilized effectively in the implementation of the Project.
6. In accordance with the laws and regulations in force in the Republic of Indonesia, the Government of the Republic of Indonesia will take necessary measures to provide at its own expense:
 - (1) Services of the Indonesian counterpart personnel and administrative personnel as listed in Annex IV;
 - (2) Land, buildings and facilities as listed in Annex V;
 - (3) Supply or replacement of machinery, equipment, instruments, vehicles,

3/11/6

tools, spare parts and any other materials necessary for the implementation of the Project other than the Equipment provided through JICA under II-2 above ;

- (4) Means of transport and travel allowances for the Japanese experts for official travel within the Republic of Indonesia.

7. In accordance with the laws and regulations in force in the Republic of Indonesia, the Government of the Republic of Indonesia will take necessary measures to meet:

- (1) Expenses necessary for the transportation within the Republic of Indonesia of the Equipment referred to in II-2 above as well as for installation, operation and maintenance thereof;
- (2) Customs duties, internal taxes and any other charges, imposed in the Republic of Indonesia on the Equipment referred to in II- 2 above;
- (3) Running expenses necessary for the implementation of the Project.

IV. ADMINISTRATION OF THE PROJECT

1. Director General for the Development of Social Rehabilitation, Ministry of Social Affairs, as the National Project Director, will bear overall responsibility for the administration and implementation of the Project.
2. Director of the National Rehabilitation Centre for the Physically Disabled People, Prof. Dr. Soeharso, Surakarta (hereinafter referred to as "RC Solo", as the Project Director, will be responsible for the managerial and technical matters of the Project.
3. The Japanese Team Leader (Chief Advisor) will provide necessary recommendations and advice to the National Project Director and the Project Director on any matters pertaining to the implementation of the Project.
4. The Japanese experts will give necessary technical guidance and advice to the Indonesian counterpart personnel on technical matters pertaining to the implementation of the Project.

3/11/94

5. For the effective and successful implementation of technical cooperation for the Project, a Joint Coordinating Committee will be established whose functions and composition are described in Annex VI.
6. The organization chart and a total management system of the Project are shown in Annex VII.

V. JOINT EVALUATION

Evaluation of the Project will be conducted jointly by the two Governments through JICA and the Indonesian authorities concerned during the last six months of the cooperation term in order to examine the level of achievement.

VI. CLAIMS AGAINST JAPANESE EXPERTS

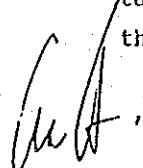
The Government of the Republic of Indonesia undertakes to bear claims, if any arises, against the Japanese experts engaged in technical cooperation for the Project resulting from, occurring in the course of, or otherwise connected with the discharge of their official functions in the Republic of Indonesia except for those arising from the willful misconduct or gross negligence of the Japanese experts.

VII. MUTUAL CONSULTATION

There will be mutual consultation between the two Governments on any major issues arising from, or in connection with this Attached Document.

VIII. MEASURES TO PROMOTE UNDERSTANDING AND SUPPORT TO THE PROJECT

For the purpose of promoting the support of the people of the Republic of Indonesia to the Project, the Government of the Republic of Indonesia will take appropriate measures to make the Project widely known to the people of the Republic of Indonesia.



3/94/11

IX. TERM OF COOPERATION

The duration of the technical cooperation for the Project under this Attached Document will be three (3) years from December 20th, 1994.

in G.

3/11/94

ANNEX I. MASTER PLAN

1. Objectives of the Project

(1) Overall Goal

Establishment of the vocational rehabilitation system for the disabled people in the Republic of Indonesia.

(2) Project Purpose

Development of the vocational rehabilitation system for the physically disabled people at RC Solo.

2. Outputs of the Project

(1) The ability of the staff of RC Solo to provide vocational guidance and to make vocational assessment will be developed.

(2) The staff of RC Solo will be trained in the fields of machine sewing and computer vocational training.

3. Activities of the Project

(1)- 1) To survey and analyze the current pre-vocational rehabilitation system

(1)- 2) To make the new vocational rehabilitation system and introduce it

(1)- 3) To assess the new system and revise it

(1)- 4) To evaluate all the activities mentioned above

(2)- 1) To make vocational training plans

(2)- 2) To develop curricula and improve them

(2)- 3) To make teaching materials

(2)- 4) To develop the training method and technical specialties

(2)- 5) To implement training courses

(2)- 6) To improve operation and maintenance methods of training machines

(2)- 7) To develop the skill evaluation method

4. Japanese Technical Cooperation

The Government of Japan will assist the Government of the Republic of Indonesia in carrying out the activities for obtaining the Project outputs, which are described in ANNEX I. 3.

Am. A.

A-2

ly
3/11/94

ANNEX II. LIST OF JAPANESE EXPERTS

1. Chief advisor
2. Coordinator
3. Long-term and/or short-term experts in the following technical fields:
 - (1) Vocational Guidance/Assessment
 - (2) Vocational Training (Machine Sewing)
 - (3) Vocational Training (Computer)

AA

A-3

3/24/62

ANNEX III. LIST OF MACHINERY AND EQUIPMENT

1. Equipment and materials in the following technical fields:

- (1) Vocational Guidance/Assessment
- (2) Vocational Training (Machine Sewing)
- (3) Vocational Training (Computer)

2. Reference books

3. Other materials and equipment mutually agreed upon as necessary.

Note:

The contents and specification of the equipment to be provided in each year will be discussed, in principle, every year between Japanese experts and Indonesian counterparts based on the annual plan within the allocated budget of the Japanese fiscal year.

uH.

3/94 L

ANNEX IV. LIST OF INDONESIAN COUNTERPARTS AND ADMINISTRATIVE PERSONNEL

1. Director General for the Development of Social Rehabilitation, Ministry of Social Affairs
2. Director of RC Solo
3. Counterpart Personnel in the following technical fields:
 - (1) Vocational Guidance/Assessment
 - (2) Vocational Training (Machine Sewing)
 - (3) Vocational Training (Computer)
4. Administrative Personnel
 - (1) Head of the Administrative Section
 - (2) Secretaries
 - (3) Typists
 - (4) Drivers
 - (5) Other necessary staff

Note:

Secretaries, typists, drivers for the Japanese Team will be assigned by the Government of the Republic of Indonesia within the allocated budget of the Project according to the Indonesian regulations.

CA

3/94 L.

ANNEX V. LIST OF LAND, BUILDINGS AND FACILITIES

1. Land and Buildings of the RC Solo
2. Office Space in the building of the RC Solo for:
 - (1) Chief Advisor,
 - (2) Coordinator,
 - (3) Other Japanese Experts,
 - (4) Secretaries,
 - (5) Typists and
 - (6) Meetings.
3. Other facilities mutually agreed upon as required

M.A.

3/11/41

ANNEX VI. JOINT COORDINATING COMMITTEE

1. Function

The Joint Coordinating Committee will meet at least once a year and whenever necessity arises:

- (1) to formulate the Annual Work Plan of the Project,
- (2) to review the overall progress of the technical cooperation program as well as the achievement, and
- (3) to exchange views on major issues arising from or in connection with the Project.

2. Members of the Committee

(1) Chairperson

Director General for the Development of Social Rehabilitation,
Ministry of Social Affairs

(2) Secretary

Director, RC Solo

(3) Indonesian Side

- 1) Director, Directorate for the Rehabilitation for the Disabled,
Ministry of Social Affairs
- 2) Head of Planning Bureau, Ministry of Social Affairs
- 3) Head of Bureau for Health and Nutrition, National Development
Planning Agency (BAPPENAS)
- 4) Directors or Heads from organization of the Ministries
concerned. Those are Ministry of Manpower, Ministry of Home
Affairs, and Ministry of Education and Culture.

(4) Japanese Side

- 1) Chief Advisor
- 2) Coordinator
- 3) Other Experts

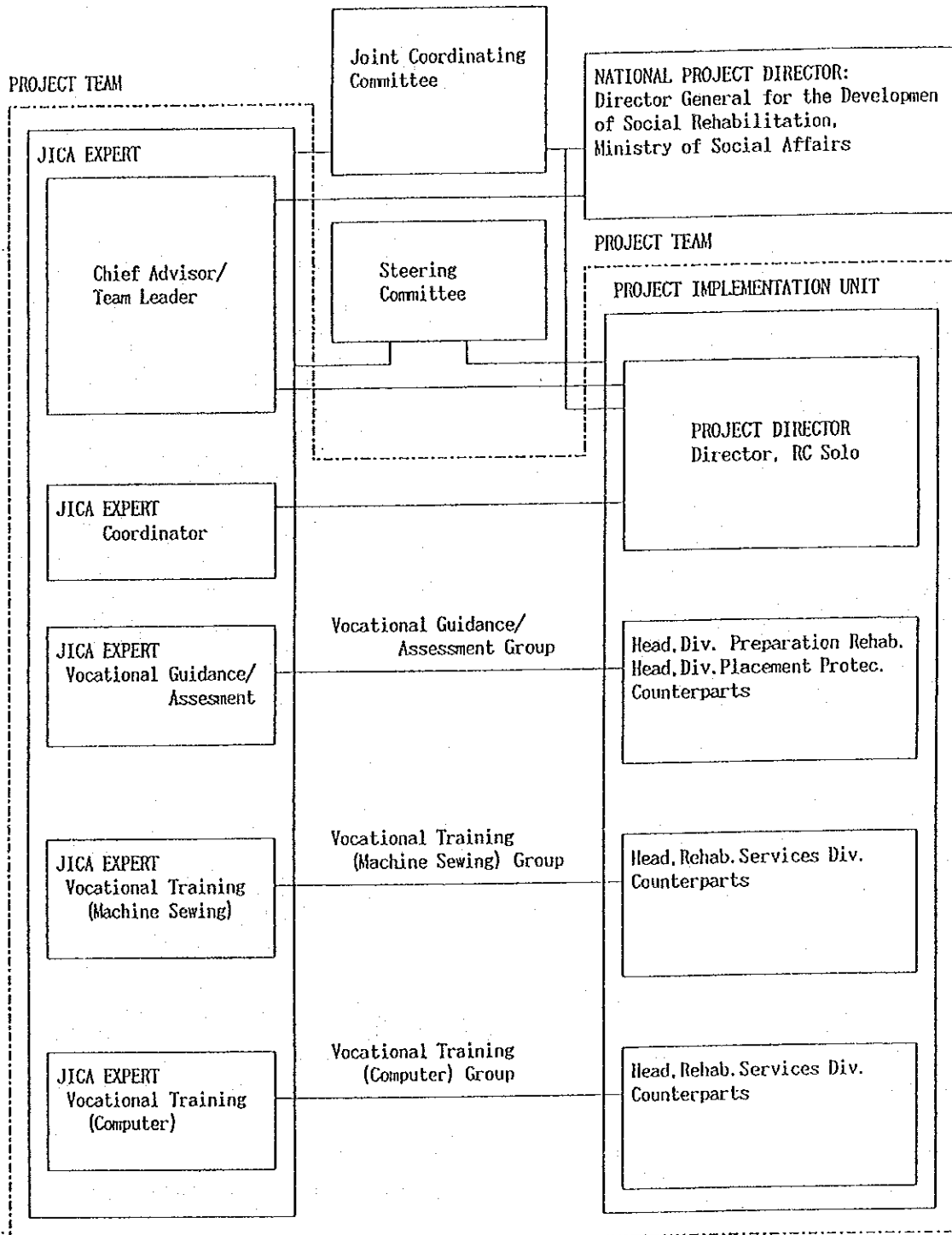
- 4) Resident Representative of JICA Indonesia Office
 - 5) Other experts and personnel concerned who are dispatched by JICA
 - 6) Official(s) of Japanese Embassy (observers)
- (5) Other personnel mutually agreed as necessary

C.A.

A-8

3/94

ANNEX VII PROJECT ORGANIZATION



Steering Committee includes the directors of Social Offices, Manpower Offices, and the chairpersons of APINDO Coordinators, for Surakarta and Central Java area. It will meet at least every three month.

A-9

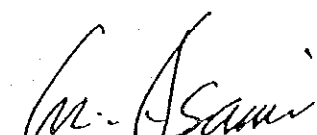
C. A. T.

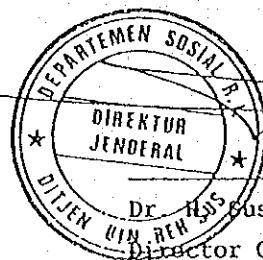
3/94 L


TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION OF
THE PROJECT FOR DEVELOPMENT OF VOCATIONAL REHABILITATION SYSTEM
IN THE NATIONAL REHABILITATION CENTRE FOR THE PHYSICALLY DISABLED PEOPLE,
PROF. DR. SOEHARSO, SURAKARTA

The Japanese Implementation Survey Team (hereinafter referred to as "the Team") and Directorate General for the Development of Social Rehabilitation, Ministry of Social Affairs (hereinafter referred to as "the Directorate General") have jointly formulated the Tentative Schedule of Implementation of the Project for Development of Vocational Rehabilitation System in the National Rehabilitation Centre for the Physically Disabled People, Prof. Dr. Soeharso, Surakarta (hereinafter referred to as "the Project") as annexed hereto. They have been formulated in connection with I-2 of the Attached Document of the Record of Discussions signed between the Team and the Directorate General for the Project on the conditions that necessary budget will be allocated for the implementation of the Project by both sides, and that the schedule is subject to change within the framework of the Record of Discussions when necessity arises in the course of the implementation of the Project.

Jakarta, 3rd November, 1994


Mr. Makoto Asami
Leader,
Implementation Survey Team
Japan International Cooperation
Agency,
Japan




Dr. H.S. Susilo Supeno
Director General
for the Development of Social
Rehabilitation, Ministry of
Social Affairs,
The Republic of the Indonesia

3/14 11

TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION

Fiscal Year	94/95	1995/1996				1996/1997				1997/1998			
Month	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	
1 Terms of Cooperation	-----												
2 Inputs by the Japanese Side													
(1) Dispatch of Long-term Experts													
Chief adviser	-----												
Coordinator	-----												
Vocational Guidance/Assessment Adviser	-----												
Vocational Training (Sewing) Instructor	-----												
Vocational Training (Computer) Instructor	-----												
(2) Dispatch of Short-term Experts	-----												
(3) Provision of Machinery and Equipment	●	●											
(4) Training of Indonesian Personnel in Japan	-----												
3 Inputs by the Indonesian Side													
(1) Services of Indonesian Personnel	-----												
(2) Expences for Implementation of the Project	-----												
(3) Building Renovation Works	-----												
(4) Fixtures	-----												
4 Project Joint Committee													
					○Mutual Consultaion					○Technical Guidance	○ Evaluation		
5 Project Steering Committee	-----												

(N.B.) This schedule is subject to change.

(Handwritten signature)

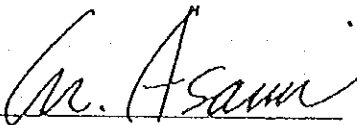
3/24/94

THE MINUTES OF MEETINGS BETWEEN
THE JAPANESE IMPLEMENTATION SURVEY TEAM AND
THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF INDONESIA
ON THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR THE PROJECT FOR DEVELOPMENT OF VOCATIONAL REHABILITATION SYSTEM
IN THE NATIONAL REHABILITATION CENTRE FOR THE PHYSICALLY DISABLED PEOPLE,
PROF. DR. SOEHARSO, SURAKARTA

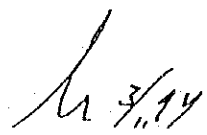
The Japanese Implementation Survey Team (hereinafter referred to as "the Team") and the Indonesian authorities concerned (hereinafter referred to as "the Indonesian side") had a series of meetings for the purpose of working out the details of the technical cooperation program concerning the Project for Development of Vocational Rehabilitation System in the National Rehabilitation Centre for the Physically Disabled People (hereinafter referred to as "the Project"). As a result of the discussions, the Team and the Indonesian side agreed to recommend to their respective Governments the matters referred to in the Record of Discussions signed November 3rd, 1994.

Both the Team and the Indonesian side also agreed to make this Minutes of Meetings in order to confirm the mutual understandings reached through the discussions as annexed hereto.

Jakarta, 3rd November, 1994


Mr. Makoto Asami
Leader,
Implementation Survey Team,
Japan International Cooperation
Agency,
Japan


Dr. H. Susilo Supeno
Director General
for the Development of Social
Rehabilitation, Ministry of
Social Affairs,
The Republic of Indonesia



ANNEX

1. Request forms for experts and equipment

The Indonesian side will proceed to submit Form A1 and A4 in order to facilitate the earliest implementation of the Project. The Team requested that these Forms arrive at JICA Jakarta Office by December 1st, 1994.

2. Counterparts

2.1 Number of counterparts

More than 2 full-time counterparts will be assigned for the Project in each field. In addition to these full-time counterparts, the chiefs of the divisions will be assigned as part-time counterparts.

In the field of vocational guidance/assessment, in addition to the counterparts mentioned above, one or two more part-time counterparts from the preparation division and the placement division will be assigned.

2.2 Experiences of counterparts

a) Guidance/assessment

Counterparts should have experiences in the field of guidance/assessment.

b) Machine sewing

Counterparts should have experiences in the field of machine sewing.

c) Computer

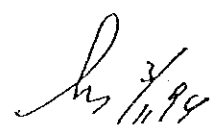
Counterparts should have experiences in the field of computer operation, or have knowledge in electrical, electronic or mechanical field.

2.3 Time of assignment

Counterparts will be assigned in the middle of January, 1995.

3. Counterpart training in Japan, 1994/95

Three applicants for counterpart training in Japan, in Japanese fiscal

Handwritten signature and date: 11/11/94

year 1994/95, will be decided in January based on the consultation with the Japanese experts.

4. Main Equipment

a) Guidance/assessment

audio-visual equipment, vocational aptitude tests, physical ability tests

b) Machine sewing

one-needle lockstich machines, button sewing machine, cutting machine, small-sized boilers

c) Computer

computers, printers, software

5. Office equipment

The team requested that office equipment, furniture, air conditioners, and a car to be provided by Indonesian side.

6. Renovation of the Rooms

a) Guidance/assessment rooms

The electric capacity and the number of outlets of the room will be increased before the Project starts. The lighting of the room will also be improved.

Guidance and assessment for new trainees will take place in the current assessment room. Placement guidance will take place in the current placement room.

A conference room and a presentation room will be secured.

b) Machine sewing room

The electric capacity more than 40kw is needed. The number of outlets of the room will be increased before the Project starts. The lighting of the room will also be improved.

c) Computer rooms

The renovation of the computer rooms will finish by the end of December, 1994.

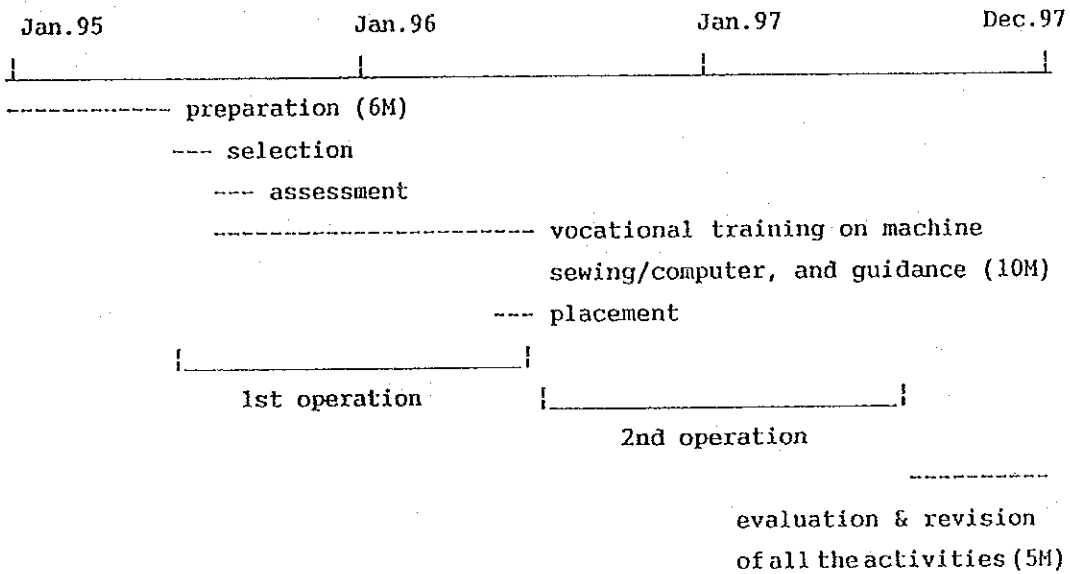
The electric capacity more than 20kw is needed.

The expert on computer will supervise electric wiring work in January 1995.

7. Vocational Rehabilitation System

7.1 Tentative schedule

Tentative schedule is as follows.



preparation --- January to June 1995,

| Selection - July 1995

1st | Acceptance and assessment - Aug 1995

operation --- | Training in machine sewing/computer and guidance
| - 10 months out of 11 month between Aug
| 1995 to June 1996

| Placement - June 1996

2nd operation --- July 1996 to June 1997

evaluation and revision of all the activities --- July to Nov 1997

Handwritten signature

Handwritten signature and date: 3/94

7.2 Objectives of vocational training

a) machine sewing

The objective is to train machine sewers.

The training consists of paper patterning, cutting and sewing necessary for making ready-made clothes.

b) computer

The objective is to train computer operators using application softwares.

7.3 Number of trainees (the disabled)

The number of trainees in machine sewing and computer vocational training will be 10 in the first operation and 20 in the second operation, in the respective field.

7.4 Qualifications of trainees (the disabled):

a) be graduates of junior high school or equivalents,

For training on computer, be graduates of senior high school or equivalent,

b) be persons with physical disability, in principle, who live in and around Central Java.

Other qualifications are those operated in RC Solo.

7.5 Annual time plan

The training is for about 1,000 hours. (1 hour consists of 45 minutes)

a) Machine sewing

basic training -> ready-made clothes -> industrial training
(100h to 150h) (700h to 800h) (100h to 150h)

b) Computer

visual display terminal -> operation system -> spreadsheet
& wordprocessing & computer language
(220h) (280h) (280h)

-> data base
(220h)

7.6 Accommodation of the trainees

The accommodation will be prepared for 20 trainees for the first operation and 40 trainees for the second operation, for machine sewing and computer training together.

8. Steering Committee

The Steering Committee will be organized and meet at least every three month.

8.1 Functions

- a) To formulate the draft of Annual Work Plan of the Project and,
- b) To review the overall progress of the technical cooperation program as well as the achievements.

8.2 Members of the Committee

a) Chairperson

Director, National Rehabilitation Centre for the Physically Disabled People, Prof.Dr.Soeharso, Surakarta (RC Solo)

Secretary

Head, General Division, RC Solo

b) Indonesian Side

-Director, Social Office for Surakarta area

-Director, Social Office for Central Java

-Director, Manpower Office for Surakarta area

-Director, Manpower Office for Central Java

-Chairman, APINDO Coordinator for Surakarta area

-Chairman, APINDO Coordinator for Central Java


-Head, General Division, RC Solo

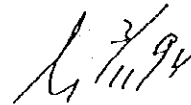
-Head, Division for Preparation for Rehabilitation, RC Solo

-Head, Rehabilitation Services Division, RC Solo

-Head, Division for Placement and Protection, RC Solo

-Counterpart personnel of the Project

 Chairperson nominates the members according to the agenda of the committee. Authorized nominated person can attend the committee.

 3/11/94

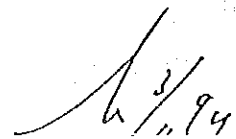
- c) Japanese Side
 - Chief Advisor
 - Coordinator
 - Other Experts

9. A Room for the chief advisor in the Ministry of Social Affairs

A room will be secured for the chief advisor in the Ministry of Social Affairs.

10. Air fare for official travel

The Indonesian side will provide round trip air fares between Solo and Jakarta monthly for two experts for official travel.



付 属 資 料

長期調査員報告書

インドネシア・ソロ身体障害者
リハビリテーションセンター
プロジェクト長期調査報告書

目的：本年4月に派遣した事前調査団の調査結果を踏まえ、本プロジェクトの実施に向けて具体的な協力計画策定を行うための情報収集及びインドネシア側関係機関との協議を目的とする。

調査員：コンピュータ 平川 和男
(飯塚職業能力技能開発センター 訓練課講師)
縫製 棚橋 清枝
(国立職業リハビリテーションセンター 職業カウンセラー)
同行者 社会省 成岡専門家

報告内容：1. 日程及び協議内容
2. 暫定実施計画(案)
3. 職業指導/評価・職業訓練実施計画(案)
4. 長期調査調査事項
5. コンピュータ科(訓練内容・機材備品リスト・設備・レイアウト)
6. 縫製科(訓練内容・機材備品リスト・設備・レイアウト)
7. 職業指導/評価(機材備品リスト・設備・レイアウト)
8. リーダー・専門家執務室(備品リスト・設備・レイアウト)
9. カウンターパート・プロジェクト運営職員
10. ソロの生活環境について

1. 日程及び協議内容

日 時	訪問先及び協議内容
8月23日(火)	成田発-ジャカルタ着
8月24日(水)	10:00 JICA事務所 打合わせ 10:30 在インドネシア日本大使館 表敬訪問 15:00 社会省 表敬訪問 R/D(案)に確認事項の回答依頼
8月25日(木)	CEVEST見学 インドネシア国コンピュータ状況調査
8月26日(金)	IBMジャカルタオフィス コンピュータ関係機関調査 JUKIジャカルタオフィス 縫製関係機器調査
8月27日(土)	移動(ジャカルタ-ソロ) ソロ・リハビリテーションセンター 11:30~12:30 表敬及び施設見学
8月29日(月)	ソロ・リハビリテーションセンター 11:00~14:30 日程及び内容
8月30日(火)	ソロ・リハビリテーションセンター 9:00~13:00 カウンターパートと運営職員
8月31日(水)	ソロ・リハビリテーションセンター 9:00~13:00 コンピュータアカデミー・縫製工場見学 13:00~14:30 機材リスト
9月1日(木)	ソロ・リハビリテーションセンター 9:00~16:45 機材リスト・施設の改修設備
9月2日(金)	ソロ・リハビリテーションセンター 9:00~11:30 暫定実施計画 職業指導/評価・職業訓練実施計画
9月3日(土)	ソロ・リハビリテーションセンター 9:00~16:00 職業訓練内容・協議内容の確認 19:00~21:00 調査団主催夕食会
9月5日(月)	移動(ソロ-ジャカルタ) 11:00~15:30 社会省 調査結果の報告及び協議 16:00~17:00 在インドネシア日本大使館 調査結果報告 17:30~18:30 JICA事務所 調査結果報告
9月6日(火)	ジャカルタ-成田着

2. 暫定実施計画（案）

暫定実施計画は、提示した日本（案）についてインドネシア側の了解を得たが、内容について問題となる点は以下のとおりである。

(1) 長期専門家の派遣

プロジェクトの予定がR/D10月中旬、長期専門家の派遣が12月初旬の予定であることについて了解を得た。ソロ・リハビリテーションセンターもできるだけ早いプロジェクトの開始を希望し、長期専門家が全員揃って12月に派遣されることを強く望んでいる。日本側も、全員が12月に派遣できるよう早急に準備を進める必要がある。

(2) 研修員の受入れ

SECAB (Secretary Cabinet) から、ソロ・リハビリテーションセンタープロジェクトの研修員日本派遣について、職業指導、職業評価、縫製各1人の名簿提出の要請がきているが、職業指導・評価で1人、縫製、コンピュータで各1人が適当ではないかとの報告を社会省より受けた。研修員の派遣についてはR/D締結後に実施されること、人選についてはプロジェクト側と協議して決定することを説明した。研修員日本派遣の人選については、初年度は管理職を派遣することが望ましい。ソロ・リハビリテーションセンターにおいては、社会リハビリテーションと職業リハビリテーションの概念が混在化しており、プロジェクト目標である職業リハビリテーションシステムの開発も、日本とインドネシア間で共通の概念を持つことが重要である。まずソロ・リハビリテーションセンターの管理職に日本のシステムを知ってもらい、リハビリテーションセンター内の職業リハビリテーションシステムの概念を整理する必要がある。また、現場のスタッフについては、基本的な技術移転は専門家が実施し、日本ではより高度な技術研修を受講した方が効果的であり、次年度の派遣が望ましいと考える。

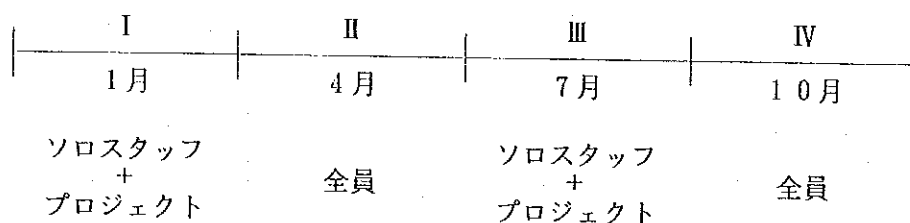
(3) 建物の改装及び設備・備品

職業指導／評価、職業訓練、リーダー・専門家執務室は見取図 (p.88) のとおりである。大幅な改修工事が必要なコンピュータ科が体育館を使用し、他については現在使われている部屋を改装することとした。建物の改装については、本年度51,000,000ルピア（約250万円）の予算が確保され、コンピュータ科は、11月から工事が始まる予定である。しかし、備品や設備に関しては本年度予算に計上されておらず、来年度予算の対象となる。仮に予算が認められたとしても執行は来年7月以降であり、コンピュータ科の

冷房装置やその他早急に必要な設備・備品については、プロジェクトの運営に支障をきたすことになり、日本側での負担が望ましい。

(4) プロジェクト合同・運営委員会

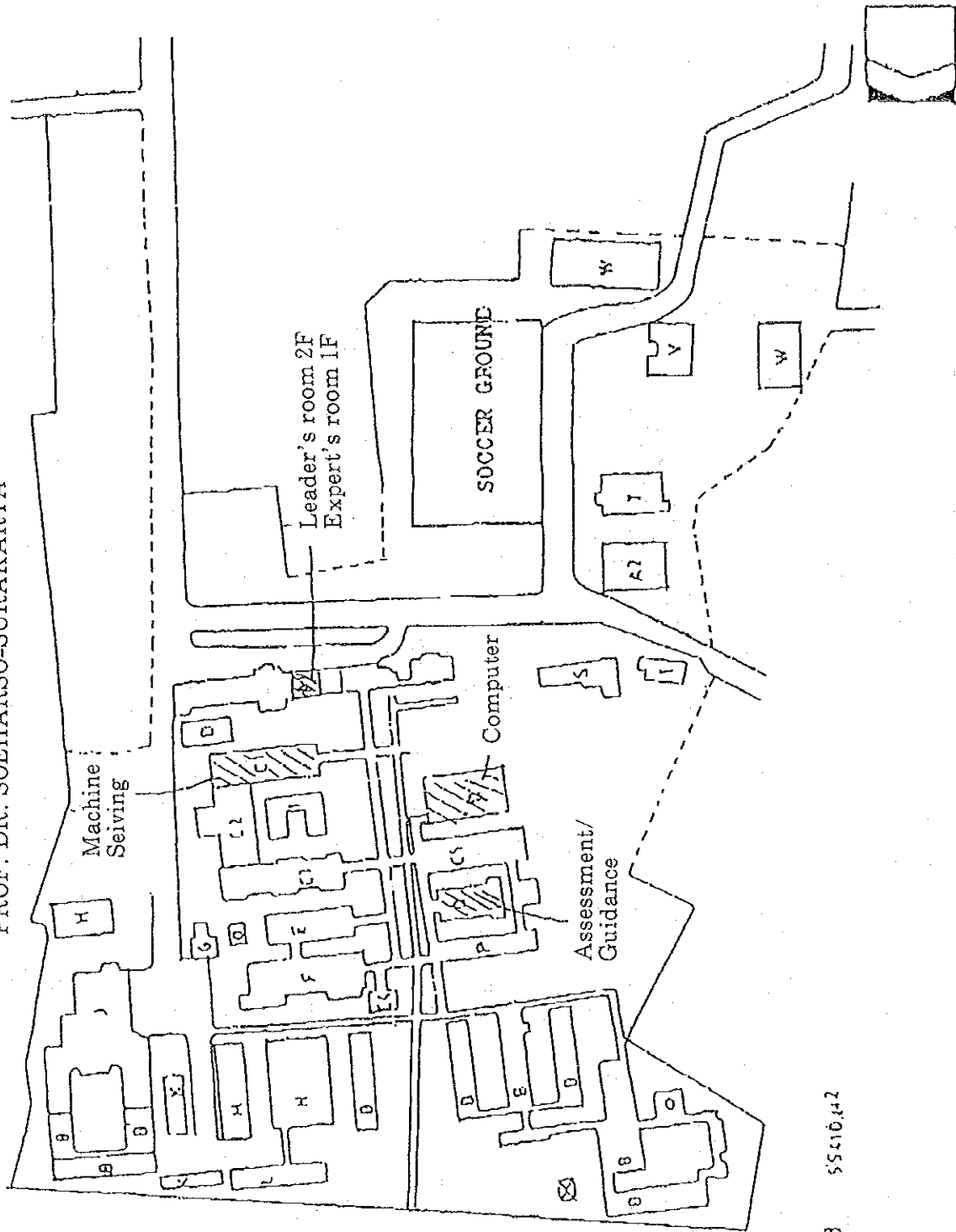
プロジェクト委員会に関しては、予算がどちらサイドかという質問がされた。委員の旅費については、各委員側の国よりの出費となり、事務経費についてはプロジェクト予算から支払うことは可能だと説明した。運営委員会については、計画（案）は2カ月に1回の開催予定だが、ソロ・リハビリテーションセンターより次の提案がされた。回数を減らし3カ月に一度年4回の開催とし、2回をソロ・リハビリテーションセンターのスタッフとプロジェクトチーム、残り2回をメンバー全員で開催するとの案である。



TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION (DRAFT)
暫定実施計画 (案)

年度(Fiscal Year)	94/95	1995/1996	1996/1997	1997/1998										
月(Month)	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1
1 Terms of Cooperation 協力期間	~~~~~													
2 Inputs by the Japanese Side 日本側投入														
(1)Dispatch of Long-term Experts 長期専門家派遣														
Chief adviser リーダー														
Coordinator 調整員														
Vocational Guidance/Assessment 職業指導・評価														
Vocational Training (Sewing) 縫製														
Vocational Training(Computer) コンピュータ														
(2)Dispatch of Short-term Experts 短期専門家派遣														
(3)Provision of Machinery and Equipment 機材供与	●				●				●					
(4)Training of Indonesian Personnel in Japan 研修員導入														
3 Inputs by the Indonesian Side インドネシア側投入														
(1)Services of Indonesian Personnel カウンターパート及び運営スタッフ														
(2)Expences for Implementation of the Project 運営予算														
(3)Building Renovation Works 建物改装														
(4)Fixtures Facilities 設備・備品														
4 Project Joint Committee プロジェクト合同委員会				◎					◎					◎
				Mutual consultation										Evaluation
5 Project Steering Committee プロジェクト運営委員会														
6 Development of Vocational Rehabilitation System 職業リハビリテーションシステムの開発														

PHYSICALLY LAYOUT OF NATIONAL DISABLED PEOPLE CENTRE
PROF. DR. SOEHARSO-SURAKARTA

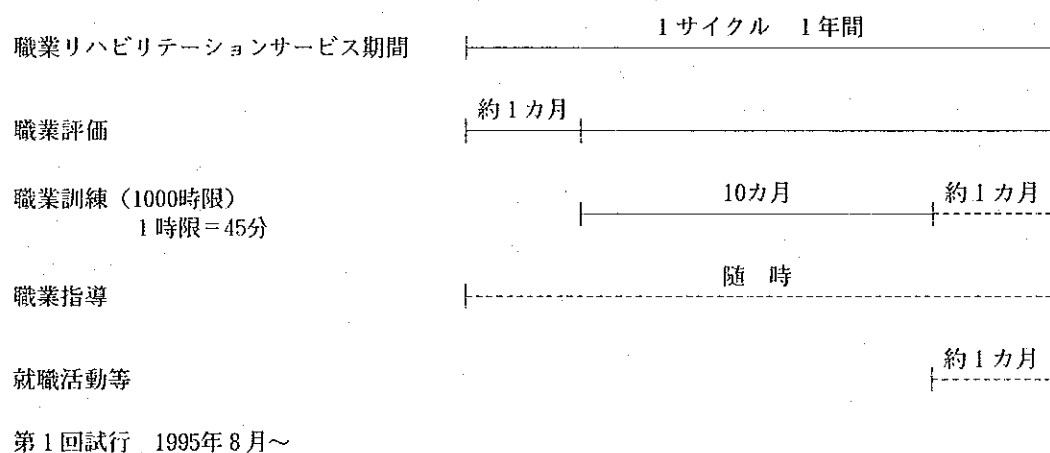


Land 5510.42

3. 職業指導／評価・職業訓練実施計画（案）

職業指導／評価・職業訓練実施計画（案）は、提示した日本（案）を基に入所生の受入れ時期について、下記のとおり協議された。

ソロ・リハビリテーションセンター入所生募集は、社会省の地方事務所では常時行われているが、ソロ・リハビリテーションセンター受入れ手続は毎年2月、8月に書類がまとめられる。ソロ・リハビリテーションセンターへの入所可否については、地方事務所では一定の様式に基づき1カ月間選考が実施され、結果は書類でソロ・リハビリテーションセンターに報告される。ソロ・リハビリテーションセンターでは書類に基づきケース会議を開き入所の可否を検討する。実際の入所は2月の手続の場合が8月、8月の手続の場合が2月である。プロジェクトもその予定に沿って入所生受入れを進めることが適当であり、協議の結果、最初の受入れは1995年8月からとした。職業リハビリテーションサービス期間は、1サイクル1年間、評価が約1カ月、残りを職業訓練（1000時限 1時限＝45分）とし、後半の1カ月は必要に応じて就職活動等を併行させることとした。



THE 3-YEAR PLAN FOR DEVELOPMENT OF VOCATIONAL REHABILITATION SYSTEM AT R.C. SOLO (DRAFT)

ソロ・リハビリテーションセンター職業リハビリテーションシステム開発3年計画

年度(Fiscal Year)	94/95	1995/1996	1996/1997	1997/1998										
月(Month)	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1
1 Terms of Cooperation 協力期間	~~~~~													
2 Technical Transfer in Vocational Guidance/Assessment 職業指導及び職業評価の技術移転	-----													
2-1 Survey and Analysis of the current Pre-vocational Rehabilitation system 現状把握及び分析	-----													
2-2 Making the New Vocational Rehabilitation System and Trial 新システムの開発及び試行	-----													
2-3 Assessment of the New System and Revision 新システムの評価及び改善	-----													
2-4 Evaluation of All Activities Mentioned above 上記の技術移転の全体評価	-----													
3 Technical Transfer in Vocational Training 職業訓練の技術移転	-----													
3-1 Making Vocational Training Plans 訓練計画作成	-----													
3-2 Making Curricula and Improvement カリキュラムの作成、改善	-----													
3-3 Making Teaching Materials 訓練教材の作成	-----													
3-4 Transfer of the Training Method and Technical Specialties 指導技法・専門技術	-----													
3-5 Transfer of Operation and Maintenance Methods of Training Machines 訓練用機器の操作・管理	-----													
3-6 Transfer the Skill Evaluation Method 訓練評価法	-----													

4. 長期調査調査事項

4-1 訓練計画

(1) 訓練開始時期

1995年8月より1996年7月迄の1年間とする。

職業訓練は9月より10カ月間（1996年6月末まで）

1995						1996						
7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7
—— 地区での選考												
ソロRC入学（評価）						就職活動						
コンピュータ訓練あるいは縫製訓練												

(2) 訓練目標

・コンピュータ科

アプリケーションソフトのオペレータを養成する。

（ワープロ・表計算・データベース）

・縫製科

縫製工の養成

紳士・婦人既製服のパターン、裁断及び縫製に必要な基本的知識と技能を修得する。

(3) 訓練内容

今年8月よりインドネシアの官公庁は週休2日制が導入され、首都ジャカルタではすでに始まっていたが、地方都市ではまだ試行の段階であった。しかし、ソロ・リハビリテーションセンターでも9月より各週で試みられるということで、訓練が開始される来年8月には完全週休2日制となっているとのことであった。そこで、週休2日での時間割を検討し、次のように訓練時間を設定した。

1時間を45分とし、週22時間の訓練時間が可能である。

$22H \times 4 \text{ 週} \times 10 \sim 11 \text{ カ月} = 880H + \alpha \approx 1000H$

（月-4h15m 火-4h15m 水-4h15m 木-6h 金-3h）

(4) 訓練対象者

小学校卒業以上の学力を有する者（コンピュータ科に関しては高卒以上が望ましい）

であり肢体障害者であること。(社会省地方事務所で7月に募集選考する)

(5) 募集人員

コンピュータ・縫製科ともに1クラス20名。

(6) 終了時の資格

労働省で行われているような資格試験を取らせたい。

「現在は特別の資格等はないが、将来は法律等の改正も考えられており、就職など義務づけられるかもしれない。」との回答を得た。

(7) 訓練経費

訓練経費については訓練生の負担はなく、国で負担している。

4-2 機材供与計画

(1) プロ技供与機材

コンピュータに関しては、インドネシア側は社会省の幹部(総局長意外)及びソロ・リハビリテーションセンターの職員も途上国間技術協力(TCDC)の機材をある程度使えるものと考えており、そのことが今後の問題となると懸念される。インドネシア側の考えは次のようであった。

「TCDC機材供与のコンピュータ11台(サーバーマシン含む)のうち、5台程を所長以下課長等の主要な幹部の部屋に配置し、それをネットワークでつなぎたい。そのためにこれらを運営管理するスタッフの配置なども計画していた。」

このことについて、我々の技術移転の主旨とは違うことを強調し、そのことに関する技術的な援助はできないことを伝えたので一応の理解を得ることができたが、我々が考えているTCDCの機材を含めたコンピュータのレイアウトについては、多々不満があるようであった。このことはTCDC供与機材とは別に本プロジェクトによる供与機材を考える方が今後の運用上望ましいと思えた。一応、話し合いの中でお互いの妥協点となるTCDC及び本プロジェクトによる供与を含めた機材リストを作成した。マシンについては、TCDCの機材等まったく問題に上がらなかった。

4-3 インドネシア側プロジェクト実施体制

(1) カウンターパート配置

後述参照(カウンターパート・プロジェクト運営職員)

とくにコンピュータに関しては、条件を付けて要望したが、新規の若年職員の採用等は無理であり、現在の職員の中から一番条件に近い者のリストを提出してもらった。

(2) 建物、施設の改修計画

前述参照（暫定実施計画）

「予算がついたので、コンピュータ（体育館改修）の部屋については11月より工事にかかり2カ月程で完了するが、縫製及び職業評価の部屋についてはその後になる。配線工事についてはすべて11月より工事にかかる。また、テーブル等については4月以降となる。」との回答をもらった。

ここでコンピュータの配線で床上げ工事は無理との回答を得たので協議した結果、天井配線とすることとした。その工事については専門家の派遣後立ち会いの下で行うよう要望した。

(3) 教室、実習場の管理体制

「コンピュータ等の機器はセンターの財産であるので、それぞれの長が責任を持って管理し、最終的には所長が責任を持つ」との回答をもらった。

実際、放課後には各部屋及び各教室は施錠され問題はないと思われた。

5. コンピュータ科（訓練内容・機材備品リスト・設備・レイアウト）

インドネシア国のコンピュータの実状を知るために、ジャカルタのIBMショールームと労働省の施設であるCEVESTを見学することができた。CEVESTでは専門家（松島、中村、丸山）の貴重な意見とアドバイスを受け、それを踏まえてソロ・リハビリテーションセンターのコンピュータ科の訓練内容、機材リスト、レイアウトを決定した。また、現地ソロでは、民間のコンピュータスクールを見学し、使用機器の現状、ソフト、授業風景等を見学できた。

・ソロのコンピュータの実状

アカデミーでは、CPU386と486のスペックを持つコンピュータが使われており、ハードディスクは内蔵されてなく、フロッピーベースでワードスター、ロータス123、MS-DOSの授業が行われていた。日本のようにブラインドタッチでキーボードを操作している生徒はいないように見受けられた。1クラス15～20名程度で、受講者の年齢は10～20代後半の男女であった（女性が多い）。授業料は3カ月コースで55万RP（公務員の給与の1カ月分）と非常に高く、誰もが簡単に受講できるような状況ではないようだ。

市内では2～3軒のコンピュータ販売店をみかけた。そのうちの1軒ではコンピュータ本体はおいてなく、カタログで客の好みのスペックで組み合わせて販売していた。価格はほとんど日本の半値以下であり、メーカーは台湾製が多いように思われた。フロッピーディスクの様な消耗品は買うことができるようだが、メンテナンスなどは期待できないと思われる。

日本で最近主流となっているWindowsはまだ普及していないようであった（もっともハードディスクがないと使用できない）。CEVESTではパソコンにインストールはされていた。

ソロの電源は220V-50Hzが給電されているが、電圧の変動が激しいとのことでスタビライザー（安定化電源）を介してコンピュータの電源を取っていた。CEVESTではワンランク上のUPS（無停電電源装置）使用していた。

・体育館の改修について

体育館を改修して、コンピュータ教室として使用することとした。これについていくつかの要望を申し出た。一番問題となるのが配線の問題であるが、CEVESTのコンピュータ教室の写真などを提示して、床上げ工事を要請したが無理との見解であった。地面を掘ってケーブルを敷くことは可能であるとのことであったが、雨期の時期の絶縁の問題や保守整備の点を考えると、天井配線しかなく配線工事については専門家の立ち会いの下で

行うよう要望した。

ネットワークのケーブリングもハブ（集線装置）とツイストペアケーブル（電話線のよ
うなもの）で接続するものに変更した（最近はこの配線が多い）。また、空調の問題であ
るが部屋を実習室、準備室、教室の3つに区切り、実習室には2台のエアコンを他は各1
台の計4台を設置するよう要請したが、来年度予算要求しても7月以降でないとは判らない
し、また要求が通るか否か判らないとのことで、コンピュータが入る3月頃までには到底
無理だとの回答を得た。（予算的には300万円位、工事費含まず）

次にソロ近郊では、このようなコンピュータの施設は大変に珍しく見学者も多くなると
思われるので、見学者が実習中の妨げにならないように実習場の横壁には窓をつけて廊下
としてもらうように要望した。

電気容量については最大使用量の1.5倍程度の20KW以上を確保するよう要求した。

・プリンタについて

当初、日本で主流のレーザープリンタを5台ネットワークで接続した構成を考えていた
が、ソロではまだレーザープリンタは一般的でなく、インドネシア側の要望でドットプリ
ンタの台数を増やした機材リストを作成した。

・ランニングコストについて

3年目からは、インドネシア側で負担するよう要望した。（25,000RP/1人）

・コンピュータ用の机と椅子について

現地で使用の机は木製で高さの調節ができず、コンピュータが1台しか置けず我々が考
えている1つの机に2台のコンピュータと1台のプリンタを置く方法が取れないので、日
本側で用意する方がよいのではないと思われる。椅子も同様である。CEVESTでも木
製のものが設置されていた（高さの調節、キャスターがないので障害者には不適）。予算的
には160万円位である。

・機材リストについて

ソロ・リハビリテーションセンターでの討論の結果作成したリストとTCDC供与機材を含
まないリストを次に示した。また、できれば導入したいものにPC-Semiがあるのでそれを
含めたリストも最後に示した。このPC-Semiとはネットワークではできない生徒の画面
の監視や質問の受付等を専用に行う専用ツールで日本の施設では多く使われているもの
である。

訓練計画

(1) 訓練開始時期

1995年8月より1996年7月迄の1年間

コンピュータに関する訓練は9月より10カ月間（1996年6月末まで）

7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7
---	---	---	----	----	----	---	---	---	---	---	---	---

コンピュータ訓練

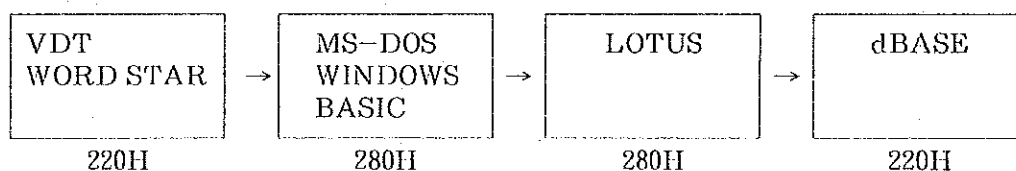
(2) 訓練目標

アプリケーションソフトのオペレータを養成する。

(ワープロ・表計算・データベース)

(3) 訓練内容

1時間を45分とし、1000Hの訓練時間とする。



(4) 訓練対象者

中学校卒業以上の学力を有する者

(5) 募集人員

1クラス20名

(6) 終了時の資格

労働省で行われているような資格試験を取らせたい。

JAPAN SIDE MACHINE PARTS LIST

ITEM	TYPE	MAKER	TOTAL	TC (1st Year)	TC (2nd Year)	TCDC	Unit Price	Total Price
(COMPUTER SYSTEM)								
1 Server Unit:								
PS/55 Server95	9595-5QT	IBM	1			1	1,460,000	1,460,000
15inch CRT	5574-N15	IBM	1			1	98,000	98,000
16MB RAM	32G3720	IBM	1			1	200,000	200,000
TAPE BACK-UP(2GB 4ra)	3440001	IBM	1			1	300,000	300,000
CD-ROM DRIVE	32G2958	IBM	1			1	98,000	98,000
2 Client Unit:								
PS/V Master	2411-RME	IBM	29	19		10	553,000	16,037,000
SMB RAM	66G0726	IBM	29	19		10	75,000	2,175,000
17inch CRT	G574-S17	IBM	29	19		10	195,000	5,655,000
3 Printer:								
Laser Printer	5584-H02	IBM	2	1		1	203,000	406,000
Dot Printer	5573-M02	IBM	11	10		1	143,000	1,573,000
Cut Sheet Feeder	35G2392	IBM	11	10		1	35,000	385,000
Auto Data Switch	2 input and 1 output		11	11			6,000	66,000
4 Stabilizer:								
UPS	APC SMART 600(GOOVA)		30	19		11	90,000	2,700,000
5 LAN Cabling:								
LAN Adapter	35G2799	IBM	22	11		11	58,000	1,276,000
Printer Server	NETPORT-2		1	1			98,000	98,000
8 Port HEB	TP0081		4			4	65,000	260,000
Twisted-pair cable 20M	8252JTB		26	15		11	5,000	130,000
6 Accessories:								
Optical Disk Drive(MO)	5559934	IBM	2	1	1		246,000	496,000
5inch 3 mord drive	35G2922	IBM	2	2			35,000	70,000
Color Note	Think Pad230C	IBM	1			1	447,000	447,000
OHP Display Panel	PD-400		1	1			224,000	224,000
Color Image Scanner	GT-5500WIN2(EPSON)		1			1	99,800	99,800
Parallel I/F Set	GTATSPIFS(EPSON)		1			1	15,000	15,000
Mouse Pad	TSA-061 (大沢商会)		30	30			2,400	72,000
7 OA Furniture:								
Computer Desk	FX-180(W1800・D800・H700)		13	19			92,000	1,196,000
Computer Chair	CC-10B		25	25			16,800	420,000
Dust Cover	DUST-OIB (大沢商会)		30	30			3,000	90,000
8 Software:								
Noton Utility	Noton Utility		1	1		1	25,000	25,000
ECOLOGY II	ECOLOGY II		1	1		1	28,000	28,000
Quick BASIC	(22 User)		1	1			116,000	116,000
Word Star Ver6.0	(22 User)		1	1			348,000	348,000
LOTUS 1-2-3	(22 User)		1	1			348,000	348,000
dBASE IV	(10 User)		1				477,000	477,000
NETWARE OS	(25 User)		1				630,000	630,000
(EQUIPMENT)								
9 3.5 inch Disket	MF2HD-D18-10P (10枚)		75	50	25		4,700	352,500
10 Printer Toner			7	2	5		25,000	175,000
11 Printer Ribbon			100	50	50		2,500	250,000
12 OA Cleaner Ket	CG-1200WD		4	2	2		1,200	4,800
13 3.5 inch Optical Disket	ODC-305		10	5	5		7,900	79,000
14 Disket Case	EDC-G33B-M (コクヨ)		20	10	10		860	17,600
15 Disket Binder	841-60400(LIHIT)		20	10	10		2,500	50,000
16 Disket cassetler	FP-221 (サカセ)		3	3			2,200	6,600
17 Disket Cabinet	EDC-623 (コクヨ)		2	1	1		24,000	48,000
18 OA Business Paper	A4 410-00104 500枚		15	10	5		5,250	78,750
19 Address seal	305-22610 (桜井AS04) A4		3	2	1		10,000	30,000
20 Clear File	ラ-460Y (コクヨ)		50	30	20		1,800	90,000
21 Stop Watch	SVAY001 (セイコー)		2	2			13,200	26,400
22 OA Tap	SSI-2001 (大沢商会)		2	2			4,980	9,960
23 Tool Set	ホ-ザン(S-5)		2	2			11,600	23,200
24 Hed Cleaning Disk	340-22110(HC/3.5)		10	5	5		2,500	25,000
TOTAL PRICE				24,106,860	1,361,750	13,817,000	39,285,610	

JAPAN SIDE MACHINE PARTS LIST (PC-SEMI教育支援装置)

ITEM	TYPE	MAKER	TOTAL	TC (1st Year)	TC (2nd Year)	Unit Price	Total Price
(PC-SEMI SYSTEM)							
1	PC-SEMI KS中央装置	NEC	1		1	888,000	888,000
	PC-SEMI KS操作ボード	NEC	1		1	220,000	220,000
	PC-SEMI KS端末装置	NEC	20		20	125,000	2,500,000
	K型専用ケーブルセット	NEC	20		20	57,000	1,140,000
TOTAL PRICE							4,748,000

インドネシア側調達品及びランニングコスト

INDONESIA SIDE								
ITEM	TYPE	MAKER	TOTAL	(1stYear)	(2ndYear)	(3rdYear)	Unit Price	Total Price
(EQUIPMENT)								
1	Air Counditioner	SVL40DB	DAIKIN	3	3	最大14000Kcal/h	872,000	2,616,000
2	Air Conditioner	SVS50DBT	DAIKIN	1	1	最大5000Kcal/h	508,000	508,000
3	Vacuum Cleaner			1	1			
4	White Board			2	2			
5	Cabinet Locker			1	1			
6	OA Manuscript Stand			25	25			
7	Lecture Desk			20	20			
8	Lecture Chair			20	20			
9	Lecturer Desk			1	1			
10	Thermometer			8	3			
TOTAL PRICE							3,124,000	
(RUNNING COSTS)								
1	3.5inch Disket	MF2HD-DIS-10P (10枚)		25		25	4,700	117,500
2	Printer Toner			5		5	25,000	125,000
3	Printer Ribbon			50		50	2,500	125,000
4	OA Cleaner Ket	CG-1200WB		2		2	1,200	2,400
5	3.5inch Optical Disket	ODC-305		5		5	7,900	39,500
6	Disk Case	EDC-633B・M (コクヨ)		10		10	880	8,800
7	Disket Binder	841-50400(LHIT)		10		10	2,500	25,000
8	Disket Cabinet	EDC-823 (コクヨ)		1		1	24,000	24,000
9	OA Business Paper	A4 410-00104 500枚		5		5	5,250	26,250
10	Address seal	305-22610 (桜井AS04) A4		1		1	10,000	10,000
11	Clear File	ラー460Y (コクヨ)		20		20	1,800	36,000
12	Hed Cleaning Disk	340-22110(HC/3.5)		5		5	2,500	12,500
TOTAL PRICE							551,950	

JAPAN SIDE MACHINE PARTS LIST (TCDCを含まない場合)

ITEM	TYPE	MAKER	TOTAL	TC (1st Year)	TC (2nd Year)	Unit Price	Total Price
(COMPUTER SYSTEM)							
1 Server Unit:							
PS/55 Server95	9595-5QT	IBM	1	1		1,460,000	1,460,000
15inch CRT	5574-N15	IBM	1	1		98,000	98,000
16MB RAM	32G3720	IBM	1	1		200,000	200,000
TAPE BACK-UP(2GB 4mm)	3440601	IBM	1	1		300,000	300,000
CD-ROM DRIVE	32G2958	IBM	1	1		98,000	98,000
2 Client Unit:							
PS/V Master	2411-RME	IBM	29	29		553,000	16,037,000
8MB RAM	66G0726	IBM	29	29		75,000	2,175,000
17inch CRT	G574-S17	IBM	29	29		195,000	5,655,000
3 Printer:							
Laser Printer	5584-H02	IBM	2	2		203,000	406,000
Dot Printer	5573-M02	IBM	11	11		143,000	1,573,000
Cut Sheet Feeder	35G2392	IBM	11	11		35,000	385,000
Auto Data Switch	2 input and 1 output		11	11		6,000	66,000
4 Stabilizer:							
UPS	APC SMART 600(GOOVA)		30	30		90,000	2,700,000
5 LAN Cabling:							
LAN Adapter	35G2799	IBM	22	22		58,000	1,276,000
Printer Server	NETPORT-2		1	1		98,000	98,000
8 Port HEB	TP0081		4	4		65,000	260,000
Twisted-pair cable 20M	8252JTB		26	26		5,000	130,000
6 Accessories:							
Optical Disk Drive(MO)	5559004	IBM	2	1	1	248,000	496,000
5inch 3 mord drive	35G2922	IBM	2	2		35,000	70,000
Color Note	Think Pad230C	IBM	1		1	447,000	447,000
OHP Display Panel	PD-400		1	1		224,000	224,000
Color Image Scanner	GT-5500WIN2(EPSON)		1		1	99,800	99,800
Parallel I/F Set	GTATSPIFS(EPSON)		1		1	15,000	15,000
Mouse Pad	TSA-091 (大沢商会)		30	30		2,400	72,000
7 OA Furniture:							
Computer Desk	FX-180(W1800*D800*H700)		13	13		92,000	1,196,000
Computer Chair	CC-10B		25	25		16,800	420,000
Dust Cover	DUST-OIB (大沢商会)		30	30		3,000	90,000
8 Software:							
Noton Utility	Noton Utility		1	1		25,000	25,000
ECOLOGY II	ECOLOGY II		1	1		28,000	28,000
Quick BASIC	(22 User)		1	1		116,000	116,000
Word Star Ver5.0	(22 User)		1	1		348,000	348,000
LOTUS 1-2-3	(22 User)		1	1		348,000	348,000
dBASE IV	(10 User)		1	1		477,000	477,000
NETWARE OS	(25 User)		1	1		630,000	630,000
(EQUIPMENT)							
9 3.5 inch Disket	MF2HD-D18-10P (10枚)		75	50	25	4,700	352,500
10 Printer Toner			7	2	5	25,000	175,000
11 Printer Ribbon			100	50	50	2,500	250,000
12 OA Cleaner Ket	CG-1200WD		4	2	2	1,200	4,800
13 3.5 inch Optical Disket	ODC-305		10	5	5	7,900	79,000
14 Disket Case	EDC-G33B-M (コクヨ)		20	10	10	880	17,600
15 Disket Binder	841-60400(LIHIT)		20	10	10	2,500	50,000
16 Disket cassetter	FP-221 (サカセ)		3	3		2,200	6,600
17 Disket Cabinet	EDC-623 (コクヨ)		2	1	1	24,000	48,000
18 OA Business Paper	A4 410-00104 500枚		15	10	5	5,250	78,750
19 Address seal	305-22610 (桜井AS04) A4		3	2	1	10,000	30,000
20 Clear File	ラ-400Y (コクヨ)		50	30	20	1,800	90,000
21 Stop Watch	SVAY001 (セイコー)		2	2		13,200	26,400
22 OA Tap	SSI-2001 (大沢商会)		2	2		4,980	9,960
23 Tool Set	ホ-ザン(S-5)		2	2		11,600	23,200
24 Hed Cleaning Disk	340-22110(HC/3.5)		10	5	5	2,500	25,000
TOTAL PRICE				37,923,860	1,361,750		39,285,610

コンピュータ/ディスプレイ最低スペック

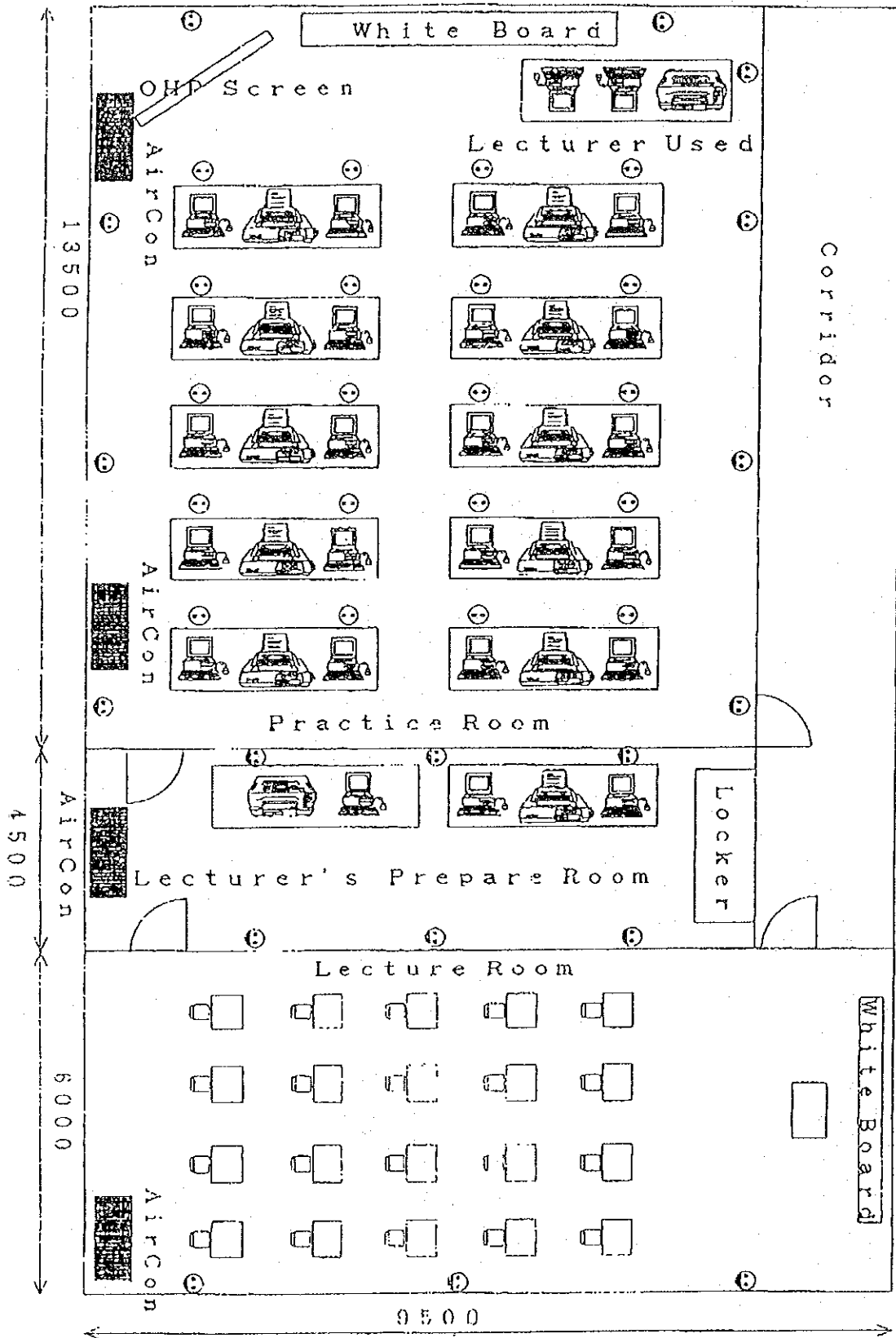
〔サーバー機〕		
プロセッサ		Pentium-66MHz
キャッシュ・メモリー		25GKB
主記憶 (RAM) 標準		16MB+16MB (オプション)
	最大	256MB
VRAM		1MB
補助記憶装置	デスクトップドライブ	3.5 inch (2.88MB/1.44MB/720KB)
ハードディスク	標準	1GB
	最大	9GB
	データ転送速度	4.8MB/S
	平均シーク時間	8.7ms
インターフェース (ポート)		RS-232C(9ピン)*2、プリンタ*2、キーボード、マウス ディスプレイ、SCSI-2(Fast/Wide)
バス・アーキテクチャー		Micro Channel (32ビットデータ・バス)
オプション用スロットル		6
グラフィック表示		1024 * 768ドット 167,000色中 256色
主な付属品		キーボード、マウス、マニュアル CD-ROM Drive 3.5 inch Optical Disk Drive
〔クライアント機〕		
プロセッサ		IDX4-100MHz(Pentium アップグレード可能)
キャッシュ・メモリー		8KB
主記憶 (RAM) 標準		8MB+8MB (オプション)
	最大	40MB
VRAM		2MB
補助記憶装置	デスクトップドライブ	3.5 inch (1.44MB/1.2MB/720KB)
ハードディスク	標準	720MB
	最大	2.88GB
インターフェース (ポート)		RS-232C(9ピン)*2、プリンタ、キーボード、マウス ディスプレイ
オプション用スロットル		4
グラフィック表示		1024 * 768ドット 167,000色中 256色
主な付属品		キーボード、マウス、マニュアル CD-ROM Drive
〔ディスプレイ〕		
走査周波数	水平	30-64KHz
	垂直	50-160Hz
ブラウン管		17 inch Flat Screen 0.28mm ドット・ピッチ
表示解像度		VGA/SVGA/XGA-2(Max1,024 * 768ドット)

Lay out (Computer)

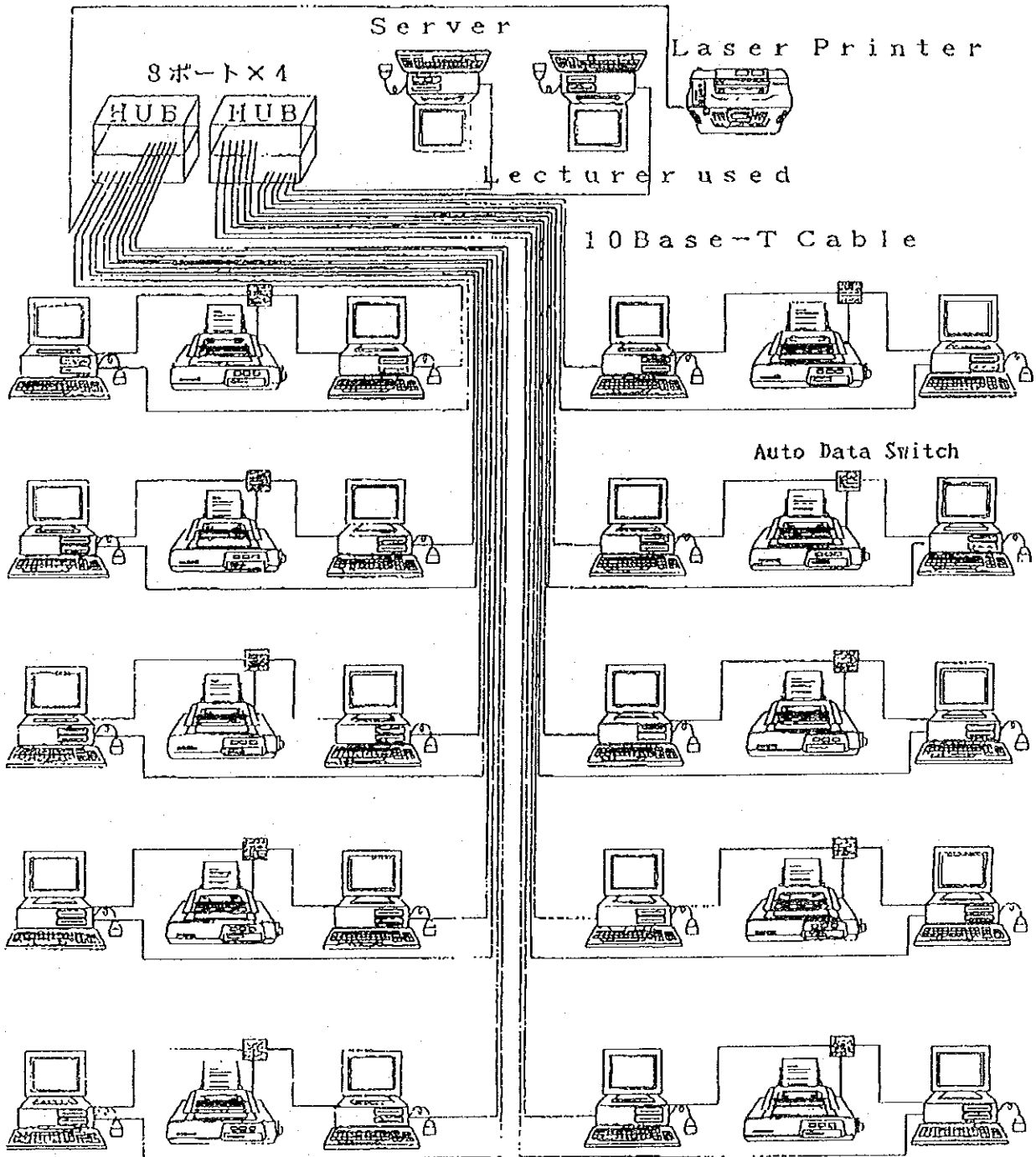
⊙ Wall outlet

Capacity 2GRW

⊙ Ceiling outlet



PC Lay out (Net Wark)



6. 縫製科（訓練内容・機材備品リスト・設備・レイアウト）

(1) 訓練内容

訓練目標	縫製工の養成 紳士及び婦人既製服のパターン、裁断及び縫製に必要な基本的知識と技能を習得する。
基礎訓練 100～150時限	① 各種縫製用機械器具類の取扱い方及び使用法 ② 基礎パターン作図法 ③ 基礎縫い、部分縫い ④ 袋物及び子供服のパターン、裁断、縫製、仕上げ
紳士及び婦人既製服縫製 700～800時限	① 紳士及び婦人既製服のデザイン ② 紳士及び婦人既製服のパターンの見方、作図法 ③ 紳士及び婦人既製服の裁断 ④ 紳士及び婦人既製服の縫製、仕上げ、工程分析
個別訓練 100～150時限	就業先にあわせた個別カリキュラム

(2) 教材費

縫製科のプロジェクト運営上、一番問題になる点は教材費である。ソロ・リハビリテーションセンターより社会省に訓練生1人年間3,000,000ルピア（約15万円）の要求額を提示されたが、インドネシア側の負担であり、インドネシアでの縫製材料は比較的安価であることから、社会省には1,000,000ルピア以上は必要であると報告した。要求どおりの予算獲得は困難であることから、安価な材料の入手経路の確保や訓練の進め方の工夫等今後の課題となることは必須である。

(3) 機材備品リスト

縫製科はTCDCの機材を含めて、20名を訓練するのに必要な機材リストを作成した。日本に比べミシンの価格が安く、現地調達であれば性能の高い機材が購入できる。ソロ・リハビリテーションセンターの縫製担当職員からは、メンテナンスの心配と細かな用具の要望が多かった。事前調査を含めソロ市内の縫製工場を3カ所見学したが、どの工場もJUKIミシンが導入されていた。メンテナンスサービスを考えると、販売実績の多い機種を選定すること、短期専門家の派遣などを検討する必要がある。

(4) レイアウト

現在使用されている部屋なので大きな改修の必要はないが、天井からの電源、明るさ、ボイラー等熱量の多い機材が多いため、電気容量は40KW以上にすることなどを要望した。

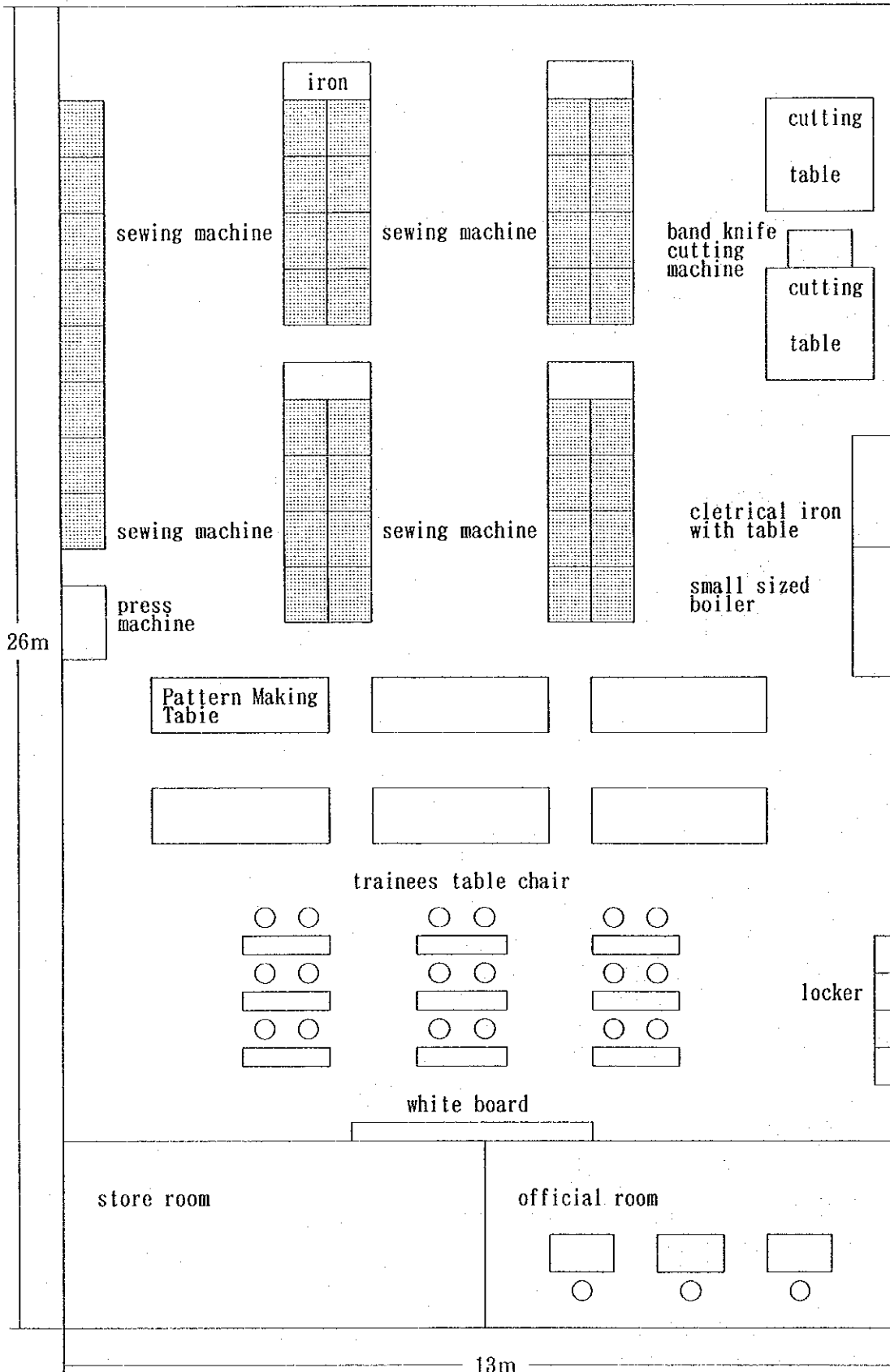
Result of Discussion

MACHINE SEWING

NO	ITEM	QUANTATY	TCDC	TOTAL
1	I needle Lockstich Machine	0	3	3
2	I needle Lockstich Machine with Automatic Thread Trimmer	20	2	22
3	Lockstich Buttonholing Machine	0	2	2
4	Chainstich Buttonholing Machine	1	0	1
5	Betton Sewing Machine	0	2	2
6	Safety Stich Machine	1	2	3
7	Overlock Stick Machine	2	0	2
8	I needle Cylinder Bed Lockstich Bartacking Machine	0	2	2
9	I needle Chainatitch Machine	2	0	2
10	I needle Embroidering Sewing Machine	0	2	2
11	Cutting Maching	2	0	2
12	Body	4	0	4
13	Electrical Iron with Vacuum Boand	4	0	4
14	Electrical Iron with Table	5	0	5
15	Small-Sized Boiler	2	0	2
16	Cutting Table	2	0	2
17	Band-Knife	1	0	1
18	Press Machine	1	0	1
19	Sewing Attachments Set	1	0	1
20	Tools Set(Cutting, Patern, Press) (Including OHP and Screen)	1	0	1
21	Mirror	2	0	2
22	Sewing Kits	25	0	25
23	Instruction Manual	5	0	5
24	White Board(*) Big 1 Small 1	2	0	2
25	Trainees Table Chair(*)	12	0	12
26	Instruction Table Chair(*)	6	0	6
27	Locker(*)	5	0	5

No mark Japness Side
Mark(*)Indonesian Side

Lay Out (Machine Sewing)



7. 職業指導／評価（機材備品リスト・設備・レイアウト）

(1) 機材備品リスト

日本側で用意した機材リストに加え、ソロ・リハビリテーションセンターからは身体検査用器具及び機能検査器具の要望が多く出された。TCDCでビデオ機材が入っているが、もう1台必要ということでリストに加えた。

(2) レイアウト

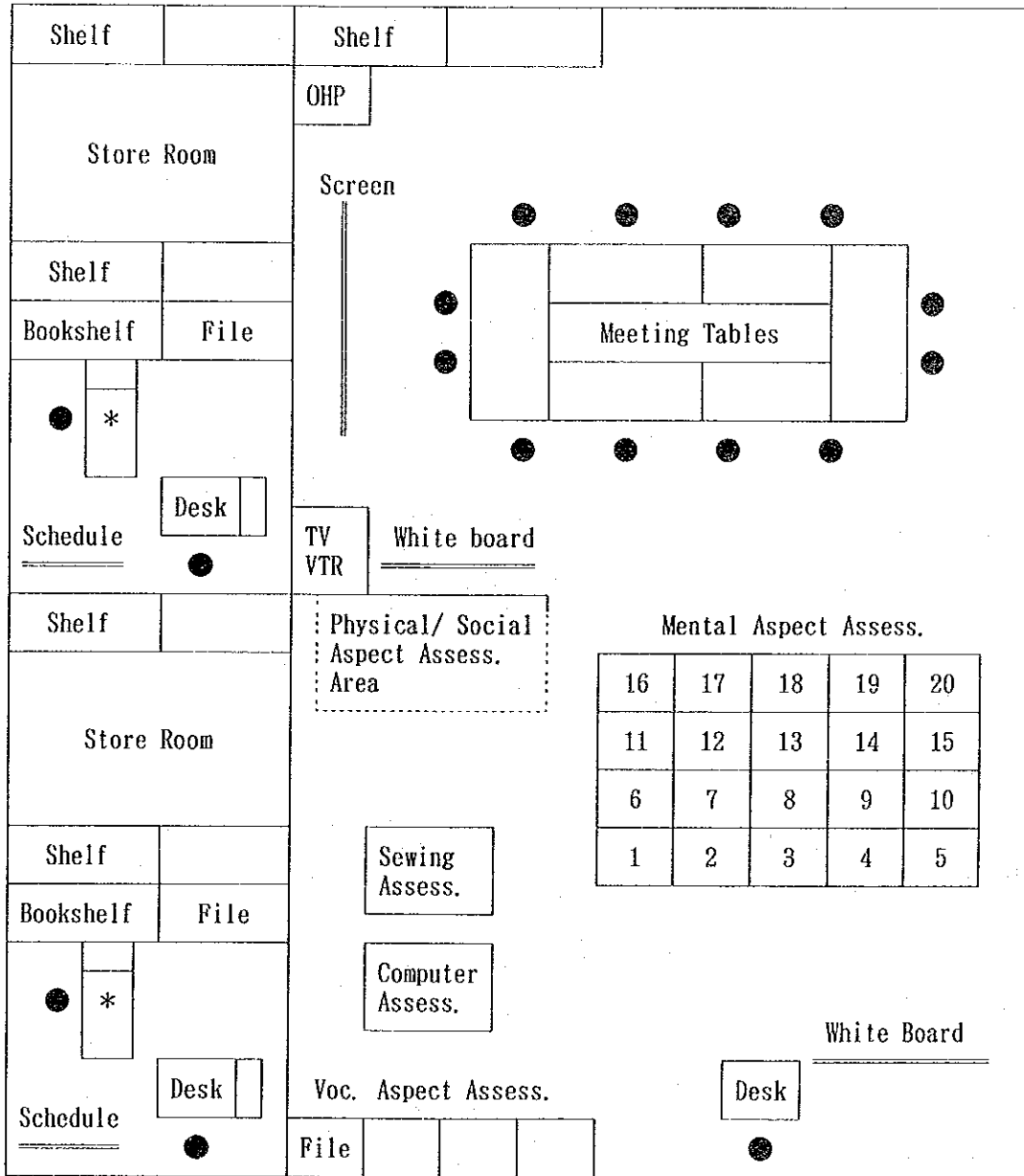
ガイダンスとアセスメントを別に2部屋要求したが、現状で難しいということで現在の部屋を改装して使用することとした。マシンやコンピュータ等で電源が多く必要になるので、電気容量の増量、コンセントの増設、部屋の照明などの改装を要望した。

Vocational Guidance and Assessment

No	ITEM	QUANTATY	TCDC
(Physical Aspect)			
1	Height Meter	2	
2	Weight Meter	2	
3	Grip Dynamometer	2	
4	Back & Led Mus de Dynamometer	2	
5	Spirometer	2	
6	Zako(?)meter	1	
7	Eyes Illumination Chart	1	
8	Color Blindnes Tester	3	
9	Audio meter	1	
10	Matras (1.5m×2m)	2	
11	Mirror (1.5m×2m)	1	
(Mental Aspect)			
1	Stop watch	5	
2	Calculator	5	
3	WAIS-Rintelligence Test	5	
4	Kohs Cube Design Test	5	
5	Binet Test	5	
6	Rorsesh Test	2	
(Vocational Aspect)			
1	General Vocational Aptitude Tester		1
2	General Vocational Test Battery	5	
3	Personal Computer and Software	2	
4	Sewing Machine	1	
5	Tapping Tester	2	
6	Match Tester	2	
7	Cord Binding Tester	1	
8	Phepple-Type Stabilimeter	1	
9	Reaction Time Tester	1	
10	Threading Tester	2	
(Vocational Guidance)			
1	Overhead Projector	1	
2	Slide Projector	1	
3	TV Monitor	1	1
4	Video Tape Recorder	1	1
5	AV Unit Table(*)	1	
6	Screen	1	
7	Camera	1	
8	Casette Recorder	1	
9	Video Camera	1	1
10	Mini-Bus for Trainee	1	
(*)	Desks and Chairs		
(*)	Bookshelves		
(*)	Filing Cabinets		
(*)	Meeting Tables		
(*)	Schedule Board		
(*)	White Board		

(*) Indonesian Side

Layouts & Equipment for Vocational Guidance/Assessment Rooms(Draft)
 Vocational Guicance Room



8. リーダー・専門家執務室（備品リスト・設備・レイアウト）

(1) 機材備品リスト

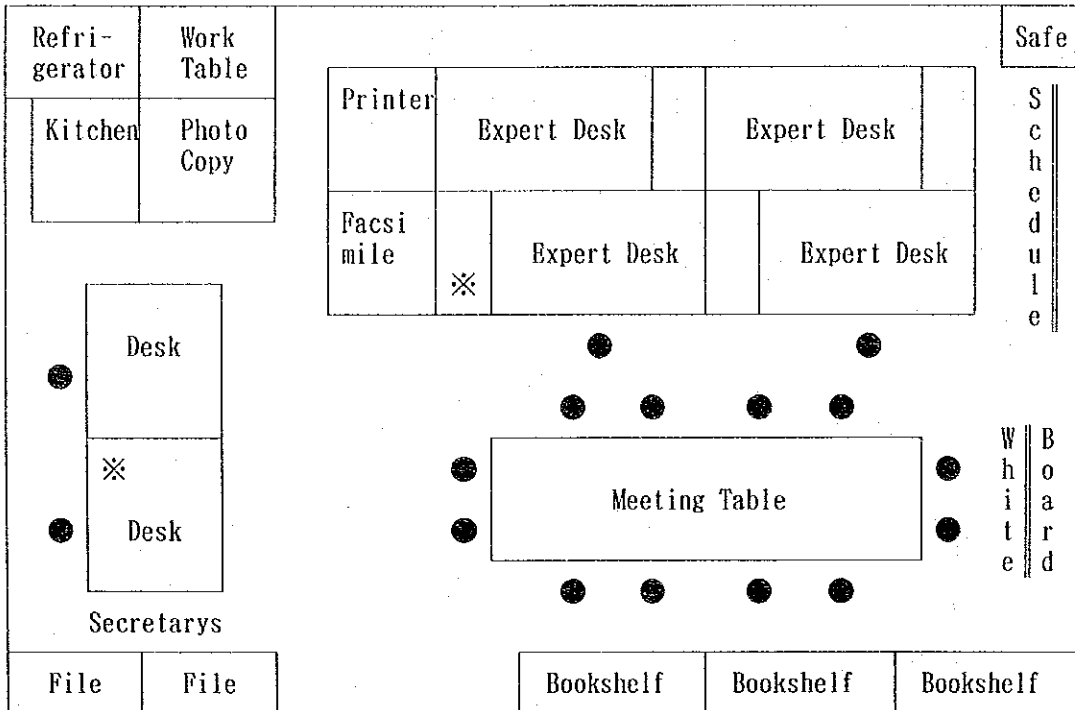
本館の2階にリーダーの部屋、1階に専門家の部屋が用意される。車については予算要求のリストに入れることは難しいが、他の備品については来年度の予算に計上する事は可能である。ただし、執行が7月以降であること、要求がすべて認められるとは限らないことから、業務に即必要な備品は日本側で用意すべきである。

Equipment for project Term

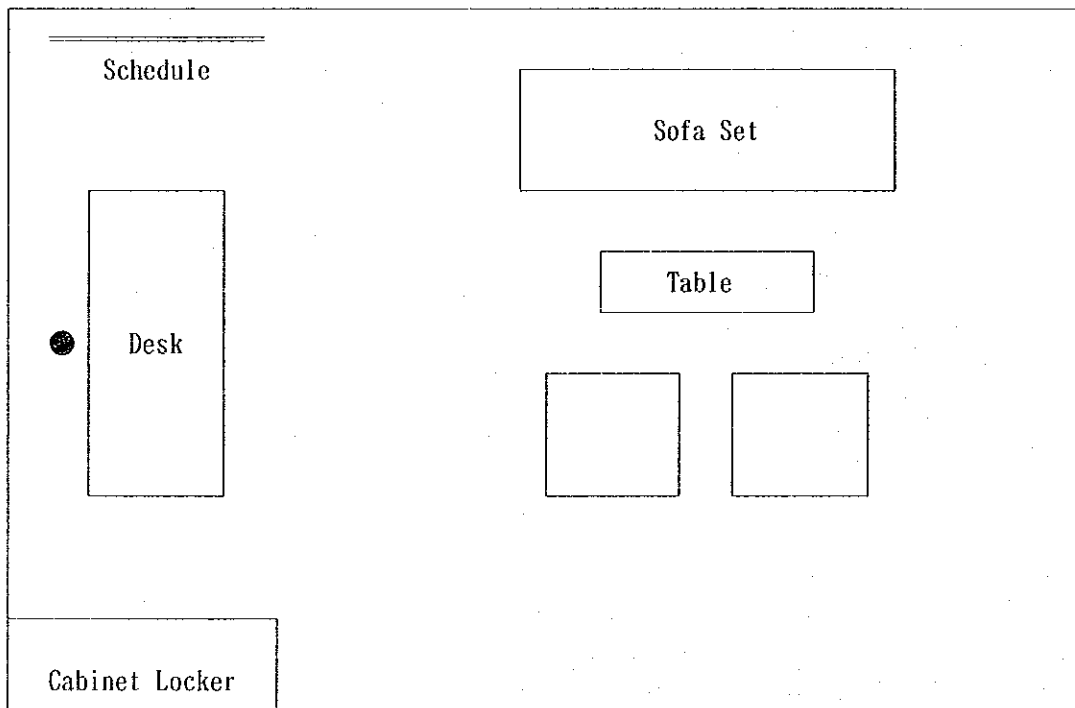
No.	ITEM	QUANTATY	
* 1	Official Car	1	
* 2	Photo Copy	1	
* 3	Facsimile	1	
* 4	Telephone	1	
	Telephone (extension)		
* 5	Air-conditioner	2	
* 6	Safe	1	
* 7	Refrigerator	2	
* 8	Kitchen	1	
9	Desk	6	
10	Chair	6	
11	Book Shelves	3	
12	Filing Cabinet	2	
13	Schedule Board	2	
14	White Board	1	
15	Wall Clock	1	
16	Meeting Table	1	
17	Meeting Chair	12	
18	Leader's Desk	1	
19	Leader's Chair	1	
20	Sofa Set	1	
21	Carpet	1	
22	Cabinet	1	

1～8 日本側での負担が望ましい備品

Layouts & Equipment for Project's Room (Draft)



Layouts & Equipment for Chife Adviser's Room



9. カウンターパート・プロジェクト運営職員

カウンターパートについては、各部門フルタイムで2人以上、職業指導/評価、縫製については経験者、コンピュータについては経験者がいない場合は電子、電気、機械等を専門とする者を1人以上加えること、担当部門の課長（パートタイム）を加えることを要求し協議した。最終的にソロ・リハビリテーションセンターがメンバーリストと現場のスタッフについての履歴リストを作成した。運営職員については、インドネシア側に予算措置がないことから、ソロ・リハビリテーションセンターのスタッフがパートタイムで手伝えることは可能であり、次のリストが作成された。

ANNEX IV

INDONESIAN COUNTERPART AND ADMINISTRATIVE PERSONNEL

1. Director General for Social Rehabilitation Department of Social Affairs : Mr. Susilo Supeno
2. Director of RG Solo : Mr. Waslan Syech.
3. Counterpart :
 - a. Vocational Guidance and Assessment :
 1. Mr. Usman Suryanto (Chief of Division for Preparative Rehabilitation).
 2. Mr. Warsito, PH (Chief of Placement and Social Protection Division)
 3. Mr. Budi Hartono
 4. Mrs. Dyah Ika
 5. Mr. Triyanto
 6. Mrs. Ratna Kumala Tejawati. (V)
 - b. Machine Sewing :
 1. Mr. Istichfar (Chief of Rehabilitation Service Division)
 2. Mrs. Sugiatmi
 3. Mr. Mardani
 4. Mr. Suripno
 5. Mrs. Rustihati (V)
 - c. Computer :
 1. Mr. Istichfar (Chief of Rehabilitation Service Division)
 2. Mr. Hardiyanto
 3. Mr. Bambang Tri Sugiyanto, DA
 4. Mr. Isnant
 5. Mr. Agus Sutaryanto
 6. Mr. Sudirman (V)
4. Administrative Personnel :
 - a. Head of Administrative Personnel : Mr. Radix Sukanto (Chief of General Division)
 - b. Secretaries
 1. Mr. Goemarsono
 2. Mrs. Nurhardjani
 3. Mr. Bambang Tri Sugiyanto. (V)
 - c. Typist : Mrs. Yustina Sri Sutarti
 - d. Driver : Mr. Slamet
 - e. Other Necessary Personnel :
 1. Mr. Edy Triyanto
 2. Mrs. Tutik Murning

Note : (V) = part time

1994年9月3日
プロジェクトに加入した。

Surakarta, September 3, 1994

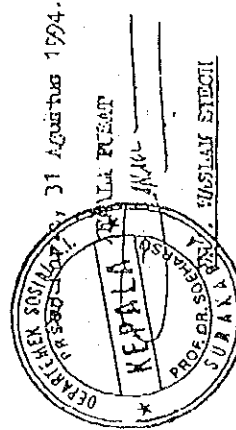
Director,
INDONESIA SOCIAL REHABILITATION CENTER
PSRD
KOTA

LIST OF INDOONESIAN COUNTERPART

NO	NAME	OCCUPATION	DATE OF BIRTH	KIND OF COMPETENCE	EDUCATION	OTHER CERTIFICATES (IF ANY)
1	Sugibni	Staff of Vocational Skill Training Section (Instructor)	July 10, 1947	Machine Sewing	Senior High School	Participation Award of International All-yspic
2	Ira. Rostikati *	Staff of Vocational Skill Training Section (Instructor)	November 10, 1953	Machine Sewing	Graduate from Special Education	Diploma on Family Welfare High School in Dress Making.
3	Mardani	Staff of Vocational Skill Training Section (Instructor)	March 23, 1952	Machine Sewing	Senior High School	
4	Suripno	Staff of Vocational Skill Training Section (Instructor)	April 3, 1954	Machine Sewing	Technical High School	Certificate of Refining Course (Intermediate level)
5	Des. Kardiyanto	Staff of Vocational Skill Training Section	March 2, 1960	Computer	Graduate from Informal Education	Certificate of Computer and Electronic Course
6	Gudisman *	Staff of Vocational Skill Training Section (Instructor)	November 11, 1946	Computer	Technical High School	Certificate on Electronic Electricity Course
7	Imanto	Staff of Vocational Skill Training Section	September 20, 1955	Computer	Technical High School	
8	Agus Sataryanto, DA	Staff of Vocational Skill Training Section	August 11, 1965	Computer	Academy of Foreign Language	
9	BAMBANG TAN SUSIYANTO			Computer	Academy of Foreign Language	Certificate on Computer Course

INDEX	NAME	OCCUPATION	DATE OF BIRTH	KIND OF COURSE/TASK	EDUCATION	COURSE CERTIFICATE (if any)
10	Dra. Sri Ratna Kumala H Rejovati	Chief of Section for Selection of Vocation.	May 11, 1958	Vocational Assess- ment	Graduate from Sociatri	1. Intensive English Course for Indonesian Officials. 2. Training Course for Rehabilitation of Physically Disabled Persons
11	Drs. Budi Martono	Staff of Section for Selection of Vocation	August 21, 1958	Vocational Assess- ment	Graduate from Special Edu- cation	Training Course for Sports Instructor for Physically Disabled Persons
12	Dra. Lea Dyah	Staff of Section for Selection of Vocation (Psycho- logist)	August 19, 1964	Vocational Assess- ment	Graduate from Psychology	-
13	Privanto	Staff of Section for Selection of Vocation	June 9, 1959	Vocational Assess- ment	Social Work High School	-

e) Part Time.



10. ソロの生活環境について

事前調査の報告でなされていて、重複する部分もあるが、今回はソロ在住の日本人会の会長の松木氏と安谷屋（あだにや）氏に個別にお会いすることができ、ソロでの生活等の話を聞く機会が取れたのでその辺も含め報告したい。

松木氏（ブパイ縫製工場工場長）、安谷屋氏（大日ペイント工場長）ともにソロ在住4～8年で、大変にソロの町の住みやすさを強調されていた。実際ジャカルタ、ジョグジャカルタ等他の都市に比べ、治安、物価、居住環境等最高であると体感した。

(1) 住居について

薦められた住宅の候補となる地区2カ所を訪れてみた。

パジャールイング地区（西方約3 km）はソロ在住の日本人（現在25名程、ほとんど単身者）が多く住んで居るところで、水道が引かれ水の問題はないとのこと、中規模な住宅が多く旧住宅街という印象を得た。テニスコートが外れにあり、その前の家（3LD位）は年間家賃230万RP位とのことであった。

ソロバルー地区（南方約4 km）は振興の住宅地で、建築中の住居も多く大きな家が目立った所であった。道路は広く両側に店があり、プール等の設備の揃った総合体育館などもあり、日本でも最近目にする新興住宅街のイメージそのままであった。環境は大変よいと思われるが、水が悪いとのことで、日本人居住者が疥癬（かいせん）にかかり引っ越したという話を耳にした。しかし、水道が引かれているところも在るようで、候補としては非常に捨てがたい地区であった。

両地区ともソロ・リハビリテーションセンターへの通勤には車で30分位の所で、生活する上においても不便は感じられないように思えた。家賃は年間500～750万RPも出せば大変立派な家が借りられるようだ。ソロでの家賃はジャカルタでは1カ月分位だそうで、この点からもソロの物価の安さを感じた。

(2) 生活一般について

市内の大きなマーケットが3店あり、日本の味噌や醤油等も売られていた。野菜類も新鮮な物がおいてあり、全然困らないのではないかと思えた。また、最近できた日本レストラン（日光）では、ジャカルタの10分の1の値段でスキ焼きやシャブシャブが食べられ、味も大変良いと感じた。また中華料理店も数多くあり、外食しても困らない感じを受けた。

電気製品を扱う店も多く、日本に在る物はほとんど扱っていた。やはり価格は現地の

人にとっては高価であると感じた。

コンピュータの書籍については扱っている店が1軒あり、すべてインドネシア語に翻訳されていて最近の物が揃っていた。

参考：

アサヒビール330ml	1,695	RP.
カップラーメン	500~950	RP.
ラーメン袋入	250	RP.
食パン	1,000	RP.
下着	1,850	RP.
ロータス123の本(400Page)	14,000	RP.
バジャ(乗り物)	1,000	RP.(市内一円)

(3) 通信手段

インドネシア全体に使えることで、電話の回線が不足しており、すぐに引けるような状態ではないようだった。そこで、携帯電話(FAX回線も使用可能)等も考えておく方が良いのではないかと思われる。

(4) 使用人について

在住者それぞれ、お手伝いと運転手を雇っており、運転手の給与は15万RP位とのことであった。給与待遇等は相場をこわさないように今後よく相談する事が必要である。

最近、ソロでも1日中拘束されるお手伝いさんはなり手が少なくなり、探すのが少し大変ではないかとの話も聞かれた。

(5) 日本人会の活動

ソロ在住の日本人の多くは、縫製・衣料関係の商社の方が多いようで、ジョグジャカルタ、スマラン、ソロと3都市の持ち回りゴルフコンペ等をやって交流を深めているとのことであった。今回のプロジェクト参加者を大変歓迎し、待ち望んでいるようだった。

JICA